

▲老伯爵夫人取者と結婚す
スウォルス伯の末
亡人は本年五月十九
歳なるが此程其取者なりし若き男と結婚して新婦旅行を
爲したりと云ふ

●戦局日誌(一)

二月三日 對露前首議(自由行動を以るに決す)

浦 武殿令

四日 アレキシーフ敵對行爲開始報附兵の報

五日 軍事報復及に對する法令發布

六日 國交斷絶の通知

聯合艦隊佐世保を發す

八日 旅順第一次攻撃(八日夜中より九日午後一時迄)シエザレワイツテ、レトワイザン、メルラ

マ、ホルネロ、アスコルド、ノワイツク損傷

九日 仁川港外海戦 砲戦三十五分、ソリヤーク、

コレーン、及スンガリー破壊沈没

十日 宣戰詔勅公布

露 宣戰詔勅公布の報

捕虜審問開始

戰時禁制品に關する訓令發布

勸業部開始

十一日 大砲を海中に置く

浦潮艦隊奈古浦丸撃沈(艦作中)

英米伊四中立を宣す

十二日 交迎断絶に關する公文發表

京城駐在露公使撤退

濟州伊中立を宣す

十三日 國庫債券一億圓發行規程發布

露中立を宣す

十四日 旅順第二次攻撃(午前三時五十分)

戒嚴令公布

十五日 露國水雷母艦エニセイ沈没(大連灣口)

十六日 日進春日横須賀着

十七日 内務古金銀御下渡

十八日 露國政府の信報我國の行動非難

露國艦隊デフナルを出で歸途

十九日 露船の捕虜勅書

露國中立に關する公文發表

廿一日 クロバトキン、滿洲陸軍總指揮官、サ

ハロフ參謀總長となるの報

廿二日 露國再度我を非難す

露兵がシエツト群集し、一部京城に入まの報

廿三日 日韓議定書の調印

露國マシエールの上海中立謀議

廿四日 旅順第三次攻撃(第一回閉塞)

旅順第三次攻撃(第二回閉塞)

廿五日 巡洋艦隊鳴濤に於て敵艦沈没

ヤスチー撃沈

廿六日 林公使東京鐵道敷設權を要求す

海牙仲延に於ける(二十二日)露國用法大臣

廿八日 平場七星門前露斥候盤送(午前)

露國の交戦準備開始

廣 告

廣 告

當銀行八幡代理店ノ儀來ル九月十五日限リ廢止候
ニ付御預金ハ同日迄ニ御受取被下度右期日後ハ當
本店ニ於テ取扱可申候

明治三十七年九月一日

福岡市博多麴屋町

株式福岡貯蓄銀行

九月四日開店廣告

目品業營
眼鏡 老眼近眼養生及近視斜視用
玉金銀赤銅鋼鐵ニツケル及
其他各種洋形
兩眼鏡 照像鏡、望遠鏡、幻灯
器、寒暖計、マイク
今般左ノ所へ眼鏡店出張開店仕候就テハ專ラ薄利
ヲ旨トシ確實公平ナル正札ヲ以テ發賣仕候開業向
二週間ハ聊祝意ヲ表スル爲メ特ニ五歩引仕候開街
用命奉願候
追テ弊店ハ眼鏡專門コシテ大坂ノ本店ニハ製造
又ハ輸入仕候間眼鏡ニ屬シテハ如何ナル事故モ
顧客ノ満足ヲ期シ申候
定價表御入用ノ御方へ進呈ス
福岡市博多橋口町

落合天弘堂九州支店

院主久敷遊 九月一日リ博多川口
學ノ處歸縣 町舊ニニテ開業ス

眼科 内科 呼吸器科 氣管肺病治療
入院診察別室 吸器科
(貧患限敷施療)

本院儀八月卅日 舊曆七月廿日 博多藏
本町廿九番地へ移轉 診察ニ
博多川口町 大島眼科醫院

廣 告

拙者從來使用ノ實印及認印本日紛失候
ニ付以後無効トス
明治三十七年八月廿八日
若松町 進藤字三郎



◎寸法用書
改正第八版
定價表郵券
二錢郵送附
あらば送呈



ククリム製造元獨逸國
伯林市ハイテ商会
日本代理店
福岡市橋口町(特電話四五五番)

香水石鹼(荷) 山本洋物店



速記術 通商教授 須賀町一九 今村 次郎

黒崎地方を経て歸營の筈なりし

も特送せり

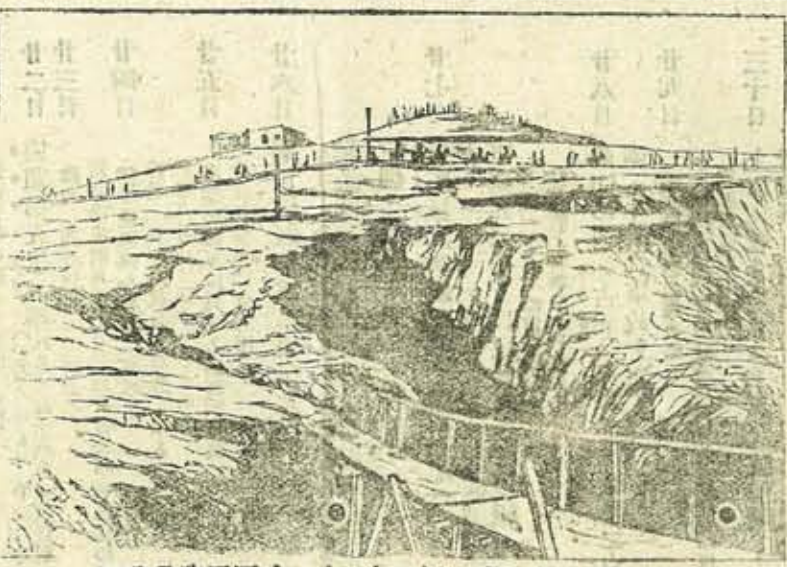
▲十九日、曇 最高温度八十度

大掃除を行ひ一個の小日本を作りて心地善くはす晝寝に寝込みたるが砲聲を破つて覺めかざり又た何時もの砲の無茶打ちなりと思ひ再びつら／＼と心地善く眠りたり

予舎營地は遼東海に面したる海岸の漁村にして莊沖の水平線を一目の裡に認め漁舟ジャンクの來を見る此頃ジャンクの増加せしを見れば牛世近より砲に糧食を運搬する者か但しは土人の跡者を搭載したる者か疑はしからざるにあらざるは海軍の援助を待たれば到底檢束する能はざる

▲十六日、曇 最高温度七十八度

今日又砲聲頻りなり海軍より發する者にはあらや暫く後報を待たざれば事實明かなるを得ず角力の備うしなり愚隊の將士は勿論チャン公混ての見物人グレンに酔うて彼の此のど批評をへヒイヤ相撲に力み込む有様面白く小錦梅が谷陸山等の假名は假名木村庄之助に由て呼び出され軍配はピンヘット箱の原紙に由て作られ藁房は長く小仲間下げられてコナタ太刀山と叫び立る



面背壘砲軍圍攻 (一十四) 報畫露征

聲は場内に響て身は全く回向院に在るの想ひあり日暮れより浪花節の演席に至れば此處は又た國定忠次の物語、傍らには臭脚敷の涼しき舞臺にビシ／＼の半身もて作られたる風鈴の音に恍惚として遂に我半我家に歸り安らかに眠るを得しは出征以來無上の樂みなりき

本日第二軍參謀長の通報に依れば敵は支那人を利用して交戦中山上又は高地に立たしめ旗を振り信號せしむる事ある處にありと南山の關以來我〇〇軍に於ても亦た屢々此の如きと見たり

敵の砲兵

昨日溝口北方に敵の砲兵第〇〇〇〇右翼戦利砲陣地を射撃し我兵が例應戦せず爲めに敵も亦くは打たせ三十分許り續けて止む所間我兵一名負傷し小銃十六挺其他雜品を毀損せり

▲十七日、曇 最高温度八十度

▲十八日、晴 最高温度九十度

本日より青泥窪、南關嶺間、青泥窪、後革鎮嶺間一日四回不定期に汽車來往す
并朝嶺關砲二門を有する敵兵約一中隊第〇〇〇〇中央隊左翼前に在る小砲を攻撃し來り約四百米突

▲九日、曇 最高温度八十五度
數日來夜に入りて必ず降雨あり何時も天明に及んで晴る道路泥濘是が爲め軍隊の行動稍や不便なり午前六時三十分頃より安子嶺の敵砲兵は第〇〇〇〇左翼大隊に向ひ時々射撃開始せしも我軍微少の損害だもなし僅かに兵士一名砲丸の破片に由り打撲傷を受けたるのみ其破片に由れば敵は七サンチ五或は八サンチ砲丸を出ひつゝあり
徒歩〇〇第〇〇〇昨日ダムニーに〇せり第〇〇〇に後志する者なり

昨日午後三時半我軍遂に四隻は小平島沖台に於て

決ならずや
此夜第一戦は現狀の儘壕中又は砲臺下にありて眠る

遼陽占領の價值

(某參謀の語)

遼陽は鴨綠江の河孟に盤居せる長白山脈と遼河平原の交界線に接し遼東半島及朝鮮國西北部並に遼河平原より通ずる道路の會合點にして所謂四通八達の要衝なり管に經濟上に於て要區たるのみならず戰略上に於ても頗る重要な地區たり我軍一度之を占領すれば以て彼れが南部滿洲に於る總ての企圖を斷念せしむべく彼れ之を占領しあれば以て我各軍に對し有利の作戰を爲す亦難きにあらざるなり本年三月以來彼が一大土王を起して其四周に堡壘を築き一七段首陣を成らし倉庫を建て軍資を充



實し大兵を集中して接戦を試みんと企圖せしは至當の計畫なりと云ふべし然るに我軍の主力旅順の要塞を背後とし遠く長驅進んで遼陽に迫りしは頗る大膽の作戰に似たりと雖も旅順は尚艦中の病虎に均し十分に全く包圍せられたる要塞の一日日陥落に近くは古來戰史の示す所些の疑を挿ひの餘地無きも遼陽の敵に至りては決して然らず情報に據れば彼は尙數箇軍團を増加せんとし既に其第一軍團は輸送中にして日々滿洲に到着しつゝある景況なればを以て一日を空うせば我に一日の損失あるなり是れ我軍の猛然起つて一大決戦を爲さんと欲せし所以なり

既記東軍の如く彼が此決戦に使用し得べく集中せし兵力は狼歩兵第一、第三、第五、第九と敵増進の歩兵第三、第七、第三十一、第三十五及び西伯利亞豫備歩兵第二、第三の十二箇師團にして其の大隊は百七十三箇あり約我十四箇師團半

に相當す其他騎兵は百三十八中隊野砲五百五十五十五重砲十六門許を有し諸國員數約二十萬に近かるべく加之三月以來五箇月餘の日を以て彼が有の土工を起せしことなれば其陣地の堅固なる以て知るべく彼れが一決戦を交へんと欲するも亦宜なりと云ふべし此決戦は彼我共に主力の衝突にして今此戰役の所謂關頭も亦云ふべしなるを以て其重要なることを待たず此決戦の勝運彼に歸せんが我交戦の目的を達せんこと頗る困難なるべく我に歸せんか我は取事の主となり少くも面洲を踏歩するを許さざらば故に其戰爭が如何に大の注目を爲せしやば當然と云ふべきなり

敵の損傷五萬以上

六日以來遼陽附近に於ける戰闘は殆んど近世史に見る能はざる程の大戦闘にして彼我の損傷非多く殊に敗軍の敗兵は大混亂を來し遼陽停車場に散せられ遂に五萬人以上の大損害を受けテロトキ、負傷ケレヴイトトキ、中將外敵名の將官死したりとの報を傳ふるものあり

滿洲自治團起る

盛京省の紳等は東三省の保衛公處と云ふを組織し立法、司法、外交、財政、軍務等の自治權は悉く該公處に收會長委員は選て民選を以て之を定の團體事變後堅せる中央政府の統治權に依頼せず人民自ら其命財產を保衛し漸次新政を協辦して外國の侵略備ふべしとの意にて章程十箇條を起草し内田邦公使の賛成を求めたるも公使は断然謝絶せり發起人等の言ふ所に據れば本部を興京に置き差り興京、南滿附近の各州縣より漸を以て東省全般に遂行し自治制度の模範地たらしむべしに同志一萬餘人を糾合し居れり云々

忠義軍と激文

遼東の地に屢次露軍を擯し居れる忠義軍稱するは曾て日清戰役後戦後の疲弊遊民の多かりて勃興したる賊が爾來光緒二十七年頃に馬賊の巨魁劉騰子なるものにより滿州全体二十萬の同盟を成し忠義軍稱して露軍の侵襲的行爲に當りしも其目的を達す殆んど支離滅裂に歸したり然るに北清事變後よりて清兵の解散せらるゝもの並に遼東に於ける露兵の苛政に憂憤して義軍を起したるもの等斯に加はりたる體にして其數何程なるやを知ら各所に分團して巧に聯絡を保持し今又日露交戦起るに際し久しく露兵に憤まされたる彼等は宿

仇の時機來れると稱して各所に蜂起したるもにて其志義軍の名稱こそ往年の仇を酬ゆべく堅波等の體程より湧出したる余價の結果なり恰も第二軍の遼東某地点に上陸を開始するや奮然踴躍して屢次露兵を擯し爾來利寺殺の開

前には露軍の前哨を衝突せし事廿七回の多きに及び常に露軍に對しは大なる損害たりしなり、其他電線の中斷鐵道の破壊等を試みたるも何等は露軍の真正の目的に

既記東軍の如く彼が此決戦に使用し得べく集中せし兵力は狼歩兵第一、第三、第五、第九と敵増進の歩兵第三、第七、第三十一、第三十五及び西伯利亞豫備歩兵第二、第三の十二箇師團にして其の大隊は百七十三箇あり約我十四箇師團半

於て旅順街道を觀れば敵の逃るゝもの來るもの其
何れか多きを認むる能はず

此と全時に我前而なる敵陣地の東方に於る敵の奮
陣地に**火煙大に揚**れり之を見るに敵の此

射撃は各砲兵の砲車を轆き退却せるを掩護せんが
爲めなるを知るなり名和中佐は畑地に由り石壁

に依り之を遠見し直に命を下して追撃し其敵情
を窺ひて遠く之を追走せしめんす命下りて疾走

前進、午後一時二十分双臺溝西方高地に達す直に
不候を派して前面の敵情を搜索すれば敵は周

章狼狽干大山一帶の地方に
兵を分て旅順高地線に逃走し

云りたるを知り得たり逃るを追て双臺溝南方高地
に集中せる歩砲騎の各兵一面に恤兵部の白扇を使

つて涼を納るの光景、白蝶の飄るに似て春光一
時に湧き兵氣一段の昂れるを認めぬ

歩砲騎の各隊は前進んで第一線を長嶺子一帶に進
め〇〇〇部又た到り前進の作戦に眼を注ぎ我

隊又た暫く此處に在りて午後八時双臺溝西方王殿
元の漁村戸數三月許なるに露營す我軍は則ち茲に

旅順攻撃に入るの第一線を陥

る大に之を祝せざる可らずとてブランチ一本を畫し
寢に就く于午前二時

▲二十九日 半晴半雨
兵馬の休養と前面敵情偵察の爲めに王殿元の露營
地に海水を浴びつゝ一日を了れり

夜十一時未だ眠らず土城子方向に銃聲の豆を煎る
が如きを聴く是れ我前哨線に於ける彼我の衝突な

るべしなと云ひつゝありしが〇〇副官偵たしく
來り**軍は夜に乗じて敵の第一線を**

攻撃する筈なれば第〇〇隊は即ち出發し〇隊

は昨日午前四時半長嶺子北方畑地に集合し戦況に
由り戦闘に參與する筈なりとの命を傳ふ此夜徹宵

安眠をせず
▲三十日 晴

豫定の通り第〇〇隊は午前二時露營地を發し隊又
た同四時發長嶺子に至る軍の此日の戰闘部署は

以下八行軍の兵力に關するを以て詳載す我第
〇〇〇は昨夜銃聲を聞きたる如く〇〇歩兵〇〇の

少部隊を以て要塞第二線の敵をオビキ出し敵の我
計器に陥ると共に急進突貫し要塞近く押寄せ砲兵

の砲撃を待てり午前五時々正に天日太陽未だ出で
ざるも望臺の位置漸く認め得らるゝに及び布き列

べたる〇〇〇門の砲列陣地よりは震大動地の勢を
以て**攻撃を開始し**時時猶豫せず**砲**

壘に迫れる歩兵射撃と相和して

先づ**敵の心膽を奪へり**豫期に外れし敵は
愈々周章狼狽して抵抗すべき勇氣失せ果てたる乎

初めより叶はぬ者と諦めたる乎第〇〇〇は午前八
時容易に**干大山の敵を驅逐して之**

を**占領し**山上高く旭旗を翻へせり

之を見たる我左右の兩翼は何れ修猶豫すべき砲撃は
益々猛烈を加へて意氣大に昂りて**左翼及**

中央隊の前面高地亦た陥

る

時に午前九時なり唯だ僅かに左翼隊の向へる
街道兩側面の高地は敵の退却掩護なるべきか頑強
に抵抗して敢て退却せず然れども既に命運の定る
あり我軍は之に向て急攻撃を試みるの必要もなく
徐々攻撃しつゝありしが午前十一時に及んで全く
之を黙せしむ是に於て豫定の如く**第一**

第二の砲壘を占領し盡して此に

最後旅順攻撃の我陣地として

堅固に守備し且つ陣地の設備

に着手せり敵の要を頼める第二防

禦線は僅に半日にして我軍の占

領する處となり敵は全く最後の要塞たる旅順

に入りたるを以て無論我軍は再び此處に多少の時
日を費して攻撃の準備を爲さざる可らざる可し

▲七月三十一日より八月五日迄
先是我〇〇〇隊は豫定の陣地長嶺子北方畑地に在
て戦況を見つゝ後命を待ちたりしが初め〇〇隊と分

離せし第〇〇隊方面に稍や優勢なる敵兵出沒すと

名譽の戰死者
(一) 川上 少佐
(二) 西村 少佐



閉き馬を躍らして此方向に進み地原の高きを飛び
高薬畑の馬身を没する處を鞭ち岩石を越ゆる山岳を
上下し大潮口に至る于時午前九時既に第〇〇隊は
敵の歩騎兵を驅逐して其砲をだに認むる能はざり
しは流星光底逸 長蛇の款なきを得んや聞く〇隊
は前四時四十分石灰崖子南端に達し前出特務曹長
に兵二名を附し大潮口附近を搜索せしむ其報告に
敵兵なきを知り中隊は前進を繼續す時正に黎明な
るはより先づ山本將校斥候を出したる報告によれば
敵の前哨部隊は八隻船、王家屯東南高地脚より前
沙包西方に亘り陣地を占領せるを見るは是第〇
〇隊長三富特務曹長は兵二名を従へ大潮口西方約
三百米突の高地脚に至り前方を視察せしむ此と同
時に大潮口西方に當り敵烈なる銃聲を聞く暫く
して〇隊停止點附近に敵砲臺の如く集注し來
以て人馬多くは大潮口南端高地北側に避けし
隊長南璋氏は獨り徒歩敵情を見べく三百米突

各地祝提

○久留米市 再昨六日も前日全非の賑合なりしが昨紙上に載せしもの、外重なる催物を多くれば通明二町青年連は揃ひの扮装をなし、奥物曝入りにて各町を練り廻りしは大受けなりし△幸披川町二町青年連は樂隊を組織し勇壯なる樂譜にて市内を練り△三本松町集産場連は揃ひの衣裳にて奥物(遠陽占領)賑入りにて練廻り△目下学披川町憲兵須座に於て興業中なる嵐吉松町中村雁重尾上樂之助大等は衣裾花笠の揃ひにて現き廻り各所に於て得意の手踊をなせしは、告を兼て妙なりし中には垂簾三尺なりし女中方も見受けたり△停車場前九連連仕連は遠陽城の曳臺勇壯なる道囃にて市内を練り廻り△手踊師匠小照門下の藤娘行列は其扮装の華麗なる道囃の面白さ△其他鍛冶屋町丸八及吉見屋料理店連の道囃等種々の催物ありて、日に勝りし賑合なりし△向昨日は通明三丁目日本兵等青年有志樂隊は第四十八聯隊補充大隊に至りて祝提を表し小泉旅團長留守宅香川聯隊長留守宅へ立寄り同様祝意を表せりと云ふ

○大川町 去五日前朝より滿街國旗燈を以て花やかに裝飾し若津港碇泊中の各船船も亦た滿飾して祝意を表したり、式場は高等校内運動場にして午前九時烟火の合を以て開演、大川町長の挨拶あり三藩郡長大川町長の祝詞各生徒の唱歌夫れより各出征軍人の姓名を朗讀して參會者に告げ以て各自各戸慰問の類を省けり夫れより萬歳三唱午前十一時閉式せり、夜間各生徒數千名數回の率にて提灯行列をなし若津港本町は屋臺を建て仁和丸手隔など各町より種々異様の裝をなして市中を練り行き向引續き三日間祝意を表する筈なりし

○姪濱町 早良郡姪濱町に於ては一昨四日九日號外が遠陽占領の公報を逸早く報するや同町々長を始め町會議員町總代有志者等即刻公會堂に集會の上翌五日祝勝會を開く事に決したり斯て其日に至るや午前五時各寺院の鐘聲を相圖に各戸より登名以上各小國旗を携へて兵神境内へ集合し各戸の諸氏は用意の酒樽を十數ヶ所へ配置するや各自思ひ祝意を擧げ午前九時には總員千九百余名に達したるより小學生徒五百余名を先登として隊伍を整へ村出大隊長指揮の下に小戸別荘へ旗行列をなして參拜し更らに岩神社へ詣り山頂にて陸軍萬歳第二十四聯隊萬歳同町出征軍人萬歳を三唱し豫定の順路を勇ましき軍歌を唱へ行進し非常の盛観を呈したり當日氏神境内には宮相撲あり其他山笠、淨瀧理、樂隊等にて中どの賑合なりしと尚ほ同町出征軍人七十余名の家族は協議の上一昨日正十二時より祝勝を兼ね代前境内に於て參拜し出征軍人健康軍の大勝を祈願せり

○黒木町 八女郡黒木町にては去四日午後遠陽占領公報外着するや俄かに人氣引立ち各戸國旗及び軒燈を掲げ翌五日は兼て計畫ありし町長の提灯行列を施行するととなり午後七時寺鐘を相圖に全尋常小學校内に參集したるもの貳千余名本町長より一場の演説あり終て萬歳を三唱し本町より碧岡村へ出て全町内を廻り全尋常小學校にて

萬歳を三唱し午後十一時一同退散せり因に記す各町青年の計畫になる音楽隊は提灯行列中加入したる爲め一の盛況を呈し又他村よりの人出多く薄暮頃よりは町内廻る處人を以て充たされ近來稀れなる盛況なり各町内青年組よりは六日未明より以れ加手湖等各種祝提の催しありて賑ひを添たり

○黒崎町 三日日 遠賀郡同町宇田町第一日の曳臺飾り付けは正面祝提の大高札を建て産土神社の神護札を奉安せしが二日目は一將校抜刀を演りし後ろに戦利品の巨砲を擁し下に大なる黒鳩が白旗吹いて地上に陥落せる飾り付をなし又船町の曳臺は祝提遠陽占領を題せる額を掲げ陸軍旗を交又し町内の若者鐘太鼓隊員にて威勢よく囃し立て午後四時より十一時頃まで曳き廻りたれば路傍の見物人山を築き非常の賑ひを呈したりと

○戸畑町 五日の祝提 會は各戸より挑燈行列に一名以上を出す外各戸とも間口一軒に軒燈提燈一個を掲ぐるとしたるのみなりしも尋常小學校の祝提會場には二三挺の酒樽は開かれ職員一同萬歳を連唱して夫より豫定の提燈行列に移り同後より國道筋に沿ひて大渡場に出で築地町を前に戸畑停車場に進み第一築地地の廣場に到りて解散せしが列は尋常小學校より大渡場までに續きし程にて人員千餘名に達したり

○勝野村 小竹 敵手勝野村にては去五日午前十一時一發の烟火を以て祝賀會舉行の合圖となし第二の烟火にて一同同村役場に集合して祝杯を擧げ餘興の烟火數發を打擧げ盛況を呈せり又同村大字小竹にては遠陽占領の快報に接するや全町一齊に旗を掲げて祝意を表し翌五日は午前より一般に休業し町内六組より各曳物二臺を出して練廻り其他手踊、俄町内各戸一個以上の見立細工等ありて非常の賑ひなりし

○入部村 早良郡入部村向武會役員は遠陽占領の公報に接するや一同村役場に集合し祝提祝賀會の準備をなし五日は村民一般祝意を表する爲め毎戸國旗を掲げて休業し焚燗の相圖にて村民一同役場に集合祝賀會を開き式後冷酒の祝杯を擧げ軍人家族に對しては役場樓上にて懇話會を催し國旗一旗と君子の金員を贈與し午後二時に解散し其より各部落與物道囃し等種々の催しあり盛況を極たり

○黒木村別府 遠陽占領の號外に接するや即時鐘太鼓を以て区内に報じたるより各戸國旗を掲げ隊を準備せし提燈を點し区内の中央なる茶臼山に集り小學校教員の音頭にて 大元帥陛下萬歳陸軍萬歳を三唱し式了るや直に提燈行列を舉行し区内出征軍人の留守宅を廻訪して祝意を述べ非常の盛況を極めたり

○春日村 筑紫郡春日村大字小倉區にては遠陽占領祝賀の爲め昨日全字住吉神社境内に會合したり

○黒田村 嘉穂郡黒田村には去五日午後二時一發の烟火を相圖に同村小學校運動場集合祝提を表し其れより提燈行列を備ふし非常の賑ひなりし

○豊平村 市外豊平村大字豊富にては遠陽占領の公報達するや直ちに軒燈國旗にて祝意を表し各所大小國旗を懸へして一層の景氣を添へ去五日午後一時を期し村長を始め村會議員各區長村長一同尋常小學校に參集し萬歳を三唱して式を了し夫より

祝意を擧げて互に慶祝歡呼せるの間烟火の發揚あり日没頃散りせり尙當後同夜職生徒一同は提灯行列を舉行し餘興には角力等の催しありて賑會なりし

○南良津小學校 遠陽占領の號外來着するや去五日職生徒一同集合萬歳を唱へ村神社に參詣し生徒には茶菓を饗應し夜に入りては職員生徒音楽につれて提灯行列を爲し南良津新山崎兵丹の部落を廻れり

●日露軍人追吊大法會彙報

△參拜券配付 戦病死者の遺族並に市内各町總代其他に向け昨日事務所より丁順なる招待狀に參拜券を添へ配付したり

△馬車及汽船賃の割り 九連會社が法會當日參拜者に限り乘車賃を減退せる由は既報の如くなるが尙尙前原因なる乗合馬車賃金も一割引を以て乗車せしむる由尤も右割引券は各駐車場に於て發賣する 趣なれば參拜者は便宜最寄の駐車場に於て買求めらるべしとなり又冷泉汽船會社の乗船料も期間中は二割減となす由而かも其取路は全部なりと云ふ

△大緑門の建設 中區町新道入口には中島町の寄付に係る大緑門を建設する 趣なるが右は電氣を仕掛けて裝飾を添へ晝間は旗を滿飾し夜間は無數の球燈を点する由又共進館表門(鐵門)前にも淺倉元次郎氏の寄付に依りアツビビルの高標を打したる電氣裝飾の大緑門を建設する 趣なれば美觀想ふべきなり

△征露紀念碑 札幌ビル代理店石村卯三郎氏の寄付に係る高さ十間餘の征露紀念碑を西中洲の地に建設する由なるが是亦電氣を裝飾すと云へば見物なるべし

△アトク燈の寄付 博愛會社よりは供養堂の側にアトク燈を点する由

△大仕掛造物 白水六三郎、早川善三、白水武助、前崎正五郎の諸氏を始め其他の博愛の人物形屋連中に於て趣向を凝したる大仕掛の造り物は如何なる壯麗を呈すべきや目下日を夜に繼ぎて人形其他の製造に餘念なし今趣向の概要を略くに日露の海陸戰を模擬したる大仕掛にして其方法は中洲橋を利用して山岳砲臺を築き夫より那珂川を遡り春吉橋までの間には河中に模造せる砲臺一隻と日本軍艦二、三隻とを浮べ海陸とも後我交戰の狀を現はすものなり即ち陸上の砲臺より砲艦に向つて空砲を放ち又砲艦より同く砲射するものにて陸戰の如きは數十の軍人と五、六の馬匹とを造り付る由而して軍艦の内外には無敵の提灯並に旗を飾り付け始終音樂隊の吹奏あり殊に艦内には仕懸烟火を設け一夜つゞ交るゝ日本軍艦より露艦に向き始め提灯を送りて攻撃の真似をなし最終の夜に提灯を砲臺(烟火を送りてすれば露艦に砲臺を沈没するの光景を示すの計畫にして之を終り當夜蠟燭千挺に点火して河中に流すを以て法會の終結を告ぐることなり尙河中には彼處此處に篝火を焚く筈なるが舟の上には於てすべきか又は三本足の火皿に燈するか未定なるが各消防夫に於て火災等を警戒すべしと云ふ

○南良津小學校 遠陽占領の號外來着するや去五日職生徒一同集合萬歳を唱へ村神社に參詣し生徒には茶菓を饗應し夜に入りては職員生徒音楽につれて提灯行列を爲し南良津新山崎兵丹の部落を廻れり

祝意を擧げて互に慶祝歡呼せるの間烟火の發揚あり日没頃散りせり尙當後同夜職生徒一同は提灯行列を舉行し餘興には角力等の催しありて賑會なりし

祝意を擧げて互に慶祝歡呼せるの間烟火の發揚あり日没頃散りせり尙當後同夜職生徒一同は提灯行列を舉行し餘興には角力等の催しありて賑會なりし

滑稽今と昔

存氣樓三味道

露國の書と云ふ文字は素と「魯」の字を用ひたが、アレは魯鈍の魯の字で痴外と云ふ意味で、其上日...

が分るまいと思ふ、物には起て其起源があつて芽出たいとは全く以て今回の旅順海戦から起つ...

新柳傳 (我妻園電)

左と云ふて巡查は右あるき 筑紫坊 長官もこれで一先ず胸を撫で 仙 蜂...

ば、必らず之は腐敗をすと極つたもので、雲中
 だから早く腐る、寒中だから長く保つといふので
 はない、夫は暑中より寒中の方が幾分か早く腐敗
 もしませんけれども、此のおわかか死んでからモ
 二十日餘り、一月ばかりになるも少しも腐敗を
 して居ない、何か之は眞といふ者が腐敗をしない
 薬でも塗付てあるのか、茲が吟味の眼目と心得ま
 したるから、死骸にかけては、松屏町内へ一時下し
 まして之は入牢ではございません、奉行屋敷へ置
 く譯にもなりませんから、夫で嚴重に番を附けて
 、さうでもない此の死体を、持出されるやうな事
 つつてよなりとまじ、ソコで平八郎第一に豊田

す、此の忠五郎に無断で右やうな事をいたしました
 ると、後に自分の役目にも關はると思ひましたる
 るから、直ぐに忠五郎方へ参りまして御面を求め
 と、丁度忠五郎在宅をして居る、小一大阪東町奉行
 高木山城守殿手附一等與力の大體平八郎、忠ア
 、何か此間も大體の噂を尋りにいたして居た、
 のがあつた、私はまだ面會をした事はないけれ
 ども、出過ぎ者だと思へる、大體がどうかし
 のか、小一エ當時京都に住むをいたす豊田眞の件
 忠クム夫がどうした、小一斯ういふ依頼が空
 たので、御覽に入れても仔細はない、忠クムどう
 しやうといふのだ、小一大塩からの頼みには係り違



ひであるから、さうか買を召捕つて阪地へ下して
 買ひたい、平八郎吟味いたすといふ事で、早速眞
 召捕りに着手いたさうとは存じましたが、一應關
 根氏へ御照會を申して、さうしてから、忠夫は住
 かんな石居、貴公にも似合はんではないか、京地
 にさういふ罪人があるからといつて、幾ら別冊で
 あらうとも召捕つて大阪へ下し、平八郎の調べを
 受けさせて、全たくが邪法でも行なふやうな者
 であつて、罪人と極つたならば、夫が爲め此の京
 都に居る町奉行、又我々を始めとして與力同心、
 宛然木像同様ではないか、そんな事を照會をする
 かな、ト、ハ、ン、ト、

議
 協議事項は第一回祝提言を金州占領の際奉行した
 りしが第二回を過般有志會にて評決の通旅順陥落
 の公報あり、るは又大祝提言を掲げると及び應

銅像除幕式を利用せよ

河 昂 影

●来る十一月初旬を以て千代松原に舉行さる可き龜山上皇並に日蓮上人銅像除幕式は幾多の意味に於て福民を養育し活躍せしむ可き好箇の動機と云ふ可し

●龜山上皇が元寇の襲來に宸襟を櫛文し玉ひ至尊の身を以て辱なくも伊勢神廟に祈願し挺身國難に代らんと宣はせ玉ひしが如き三尺の童子も暗んじて威風に堪ゆる處にして之が爲に我が國民の愛國心を鼓舞し忠誠の赤心を煥發する事殆んど外人等の豫想し能はざる程に高潮なるあり而して其神銅像は近く我市の公園に建ち仰いで四民僑仰の的とならんとすや恰かも振古の國難に際し國民の敵愾心發して火の如き者あるに當り更に之に因つて一層の刺戟を與ふなば小にしては市の誇りとなし大にしては國家の元氣を振作する洵に之に過ぐる者あらざらん

●宗教家としての日蓮上人が偉大なる感化を布きて斐然たる佛教の大森林を開拓し其足蹟の印する處殆んど天來の福音を宣傳して往々神秘の奇蹟を遺せるが如き如何に世の善男善女を隨喜の涙に咽ばしめたるよ更に個人としての上人が向上心の熾烈なる時に至り狂熱の兒となり了るが如き、世を擧げて、薄志弱行の徒に充ち、貶々たる流俗將さに澆季の嘆に堪ゆるざらんとするに當り轟たる英姿の高く雲表に聳ゆる新に莊嚴なる除幕式を行へば恰かも萬古の鐵槌を國民の頭上に加へて之を叱咤激勵するが如き者ある可し豈に獨り福岡の市民とのみ云はむや

●蓋し開闢以來吾て外夷の侮を受けざるは日本國民の聲を張りて四海に誇る處なりと雖も史を開きて一たび弘安の役に及ばず皆悚然として一陣の疾風に逢ひたるの感を抱かざるなし而も此感や候として痛決拍案の「神風」に一掃せられ憐憫たるの壹岐對馬や或は我が筑前邊土を聯想すると共に直に白砂青松の千代の松原を眼前に勢擺し次で敵國に伏し上皇祈願、日蓮上人、北條時等あらゆる史上の人物に想到して一幅の活畫人は之が爲に奮躍一番するを禁する能はざる可し

●彼の元寇の如きは我國の前古を通じ一ありて實に二ありざる者なれば此の紀念を標柱に刻みて永く子孫に傳ふるは常住不斷の教訓を垂れて萬代の人心を感發するの所以なり湯池丈雄氏が元寇紀念の設立に平生を捧げて呼號到らざるなかりしは之が爲にて何れも其志を諒せざるなかりしも機會は限りなく在り再々月を經過して今日異なる人によりて事業を見ず事業によりて成功を待つ者なるが故に幾度び人を代ふるも悉く當初の同心を渝らず軍に其成功を祝するに滿幅の誠を致すと共に此成功の時を得て將來焉ら得可き功果の爲よ大ならん事を以てむの外他念あらざるなり

「爾朝明治二十三年の交と號ゆ予は熊本の濱にありしが湯池氏の事は當時已に請に就きて元寇紀念碑設立紀念式なる者な千代の松原に能ふよれたるは末代市民の記憶に著たる處なる可し當時予等全校の生徒は此式に列する爲め熊本より長途の行軍をなして福岡に來り紀念碑の礎となる可き巨石を運んで後偉大なる儀式に列せし事あり爾來星霜十餘年今や再び來りて是を九州に教り近く其成功たる銅像除幕式に逢はんとす予の如きは感に深き者あるなり

福岡縣公報

令 達

福岡縣公報第二六二號
 福岡地方裁判所管内事務區裁判所公認人山田道義
 役場左記ノ事務轉シ事務開始ノ旨全地方裁判所コ
 リ通知アリタリ
 明治三十七年十月十四日 福岡縣事務河島傳
 一役場位置 田川郡弓削田村大字奈良千七百
 四十八番地
 一事務開始 明治三十七年九月十六日

軍馬の生活

▲軍馬の舎 人間てさへ穢い土人の舎を宿とす
 るのだもの軍馬に満足な厩舎を興へる餘裕のある
 筈はないと云ふ漸陣になると急造馬繋場を作るの大
 体は軒の下や樹の下が馬の宿舎である、急造馬繋
 場と云つても高粱の屋根、樹の柱で一度雨が降り
 風が吹くと風に雨に曝され次第、憫れな状態に陥
 るのである

▲軍馬の飲料 滿洲には水らしき水がないから十
 人は河の水や沼の水を呑むのは常の事だ、楊柳の
 下軍馬に水飲ふと云ふやうな贅澤は出来ない七十
 戸に一つ百戸に一つと云ふやうな井戸の水も之れ
 亦馬より先に人間が飲み盡して丁度、馬に興へる
 水と云へば甚しく濁つた溜水か沼の水か、時には
 汚水の泳いで居るやうな水も不良いと知りながら
 飲ませる、で病毒に冒されぬから寧ろ不思議
 とする位だ

▲軍馬の食糧 本國では麥や燕麥や干草を一定の
 量を極めて興へるが戦地では原料に制限があるか
 ら充分補充する事は出来ぬ、代用馬糧として滿洲
 産の高梁、稗、粟、玉蜀黍、餅豆等を興へる、人
 間て云へば米の飯から南京オや粟飯を食はされる
 のと同じ事で馬も初めの間は是等の食糧を厭ふも
 のあるが段々に慣れて右等滿洲産の雜穀に大麥を
 交せて興へると彼等は欣んで食ふ

▲軍馬の副食 云へば干草だ、是は初めの間
 本國から供給して居たが次第に絶れた、憐なる馬
 は藜藿や菰を嚙んで居る併し七八月頃に綠草山野
 に繁るやうになつたから稍芻料の不足を補ふ事が
 出来た、若し大れ冬營中の軍馬の芻料は何うする
 でわらう是も一問題で露國は山の内地から壓搾
 干草を賣して用ゐて居たが日本でも爾云ふ事に
 なるだらう

▲軍馬の管理 以上の通り宿舎は殆んを露營、食
 物には制限がある、それでは等軍馬は人間以上の
 劇務に服するので露營の巻に墮入り、山を越へ河
 を渡りぬかぬ等少しも不中の色がない、然れ
 ば戦場でも馬も持つ兵士は常に彼の姿を見ねば淋
 しく彼の嘶く聲を聞かねば満足ならぬ心地せられ、
 食ふにつけ眠るにつけ彼の上に想ひ到るのである
 露軍だからとて成る場合には情を解する、然るに
 軍馬死せば露傍に捨てられ肉は驅れ骨は曝され願
 みるものもない、人死せば名譽の勳章あり慰給あ
 り、彼等可憐の動物の忠死に對しても宜しく一片
 同情の涙を灑ぐべしである

九州文藝 (投票を募る)

石島行 (一) ふみ子

今日(九日)は名(一)て子子會の小集、道程も左程
 ならじ、學びの(一)にそしむ日頃の鬱を晴さんも

早良島二回に分八百四十三に

銅像除幕式を利用せよ

(中)

第二銅像除幕式の期は、單に以上の如き抽象的の意義に止まらず、該式と同時に工を竣げて開館となる可き元寇紀念館は、主として元寇繪巻物其他紀念品を蒐集すると共に、鎌倉時代の武器武裝一式を陳列する者なりと云ふ之れ實に學者文人武人好古家を始め青年學生等の爲め有力なる參考資料にして併せて東京と福岡とを密接に連絡する力強き鎖と云はざる可からず。

●は太平洋に面して鯨波の余波捲て雪の如きを白沙の濱に踏む背後には鎌倉山の星月夜、長谷の大佛に紅葉ちる寂しき秋は、鎌倉の二神祠に坐禪の妙悟に入るの時や、夏は打ち返す長門曲に海水浴の都人士、輝く紅装を纏へず鎌倉の地は萬丈の紅塵に飽ける帝都の士女が實に唯一慰めの樂境にして、猶ほ忘るゝ能はざる『東京の情人』なり此處に人ありて若し鎌倉の名を東京に唱へば上下概べて直ちに其風光に憧れ其を細ふし其消息を知らんとす、這爾迄々の情緒の濃やかなる到處地方人士の思ひ到らざるものありて存する也。

●而して其情人たる鎌倉は、今や福岡に依りて幾多の紀念を綴り滿身の装を凝らして世に見せんとするに非らずや、東京の人士が之が爲に一展の注意を惹きつなくとも其鎌倉を想ふと同じ程度に於て、情を惹き以て此『情人の半身』に見せんとするの情を起すは、略易きの道なり、況んや福岡の地、千代の松原の温健を始め、近く箱崎太宰府等の名勝あり其景致と趣味とに於て決して鎌倉に劣らざるのみならず、亦別種別様の雅致ありて存するをや。

●予が二銅像除幕式を利用せよと叫ぶは主として此点に在り、所謂情に於て此点を取り理に於て史的の事實を捉へ東京と福岡とを密接せしめ、以て大に福岡市を活動せしむるの機會とせよと云ふなり、聞かぬ處によれば、該除幕式の設備は豫想外に宏入にして日蓮宗僧侶の如きは、竹んを全力を傾注し日本全國より召集せる附金の如き、無慮二十萬圓の余に出で、式當日の參拜者も亦九州よりは寧ろ關東地方の士女とからん、足なりと云ふ、如斯大規模の事業にして其手を擡げたる輪廓、外に廣きに隔らず、其除幕式を眼前に扣いて、福岡以外更に之が聲を聞かざるは、何ぞ故ぞや。

●否、福岡以外と云はず、肝腎なる禮の節も其式に於て、松原に於てすら、屹々たる彼の工事、白眼視して更に之を利用せんとする者なきは何ぞや、數日前予は病を養はんが爲め車を擡りて松原某醫師の許に到り、恰かも乘り合せたる某旅館の主人に就き如何の設備を要せるやを聞きしに、彼はへし除幕式と云ふのが十一月八日にありとすかと答ひしのみならず、之を知らざるが如くなりしを見、予は亞然として言ふ所を知らざりき。

●之を以て市民を各々なりと罵倒するは必らず暗なる可し、由來お騒がせに得處にして三月の松原台を六日に引き延ばし、或は何或は何、苟も口實あれば直ちに大々的に騒ぎ出す可き、民が八日より三十日間に亘れる大騒動あるを知り、何等施す可き策なきの道、知らざれば、不蓋し、期如きは市當局者の冷淡なるが爲に非らずや、市の有志が近眼な

るの故に、あらずや、或は投擲下踏ふして、關東にまで如上の手を賣けたる發起者等が、百慮の失に陥り、入に之に施す可き策を與へざるの罪に非らずや、其同れにするも、要するに市内一流の人士が、市民を利導して、今に何嘗の聲を擧げしめざるは、ぬかりと云はざる可からず。

福岡縣公報

●福岡縣告示第二六三號
今本縣小學校教員免許狀ヲ授與シタルモノノ左ノ如ク
明治廿七年十月十五日
福岡縣知事 河島
第一小學校 正教員 龜本有太郎 岡田昌吉 水
大石繁雄 井上義一郎 小山田延 田中實 國成茂
吉田幸吉 中野利義 石坂久吉 田中角
本島平 明春藏 山口一郎 山口謙太 淺島權八
太郎 大瀧明藏 四國繪 岩邊清太郎 下川久次
吉野崎文作 廣見敏男 野上作市 上野三代吉
之平島正生 鳥越公文 戸次茂 中屋伊藏
●福岡縣告示第二六四號
今本縣小學校教員免許狀ヲ授與シタルモノノ左ノ如ク
明治廿七年十月十五日
福岡縣知事 河島
第一小學校 正教員 梶村マエ 竹田タス
第二小學校 正教員 高津タカ

十月十日
四波修給與
甲四修給與
一松修給與
二松修給與
三松修給與
四松修給與
五松修給與
六松修給與
七松修給與
八松修給與
九松修給與
十松修給與
十一月十一日
小倉警察署請願
十一月十二日
四波修給與
十一月十一日
依願調査ヲ免ス
十一月十二日
依願調査ヲ免ス
十一月十三日
依願調査ヲ免ス
十一月十四日
依願調査ヲ免ス
十一月十五日
依願調査ヲ免ス
十一月十六日
依願調査ヲ免ス
十一月十七日
依願調査ヲ免ス
十一月十八日
依願調査ヲ免ス
十一月十九日
依願調査ヲ免ス
十一月二十日
依願調査ヲ免ス
十一月二十一日
依願調査ヲ免ス
十一月二十二日
依願調査ヲ免ス
十一月二十三日
依願調査ヲ免ス
十一月二十四日
依願調査ヲ免ス
十一月二十五日
依願調査ヲ免ス
十一月二十六日
依願調査ヲ免ス
十一月二十七日
依願調査ヲ免ス
十一月二十八日
依願調査ヲ免ス
十一月二十九日
依願調査ヲ免ス
十一月三十日
依願調査ヲ免ス

林野公賣廣告 (第八面)

第一六一號
全所字畠田四七九番
一畝有林見込面積八畝步
一松八本
全一棚六六
一棚六七尺七八
第一六二號
全所字中力四一四番
一畝有保安林見込面積一畝步
一松一本
全一棚七六
一棚七六
第一六三號
全所字大旗七八八番七八九番七九〇番
一畝有保安林見込面積二畝八畝步
一松一本
全一棚二一
一棚二一
第一六四號
全所字門村大字尾崎字友田一七一四番
一畝有原野實測面積三畝步
一松八本
全一棚〇〇
一棚〇〇
第一六五號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三
第一六六號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三
第一六七號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三
第一六八號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三
第一六九號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三
第一七〇號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三

敵の大計畫

露國目下の決心は八個
一、上海に五隻、香港に六隻、廣東に一隻
二、馬尼刺には六隻、仁川に一隻
三、佛國に一隻
四、長官旗艦

全所字畠田四七九番
一畝有林見込面積八畝步
一松八本
全一棚六六
一棚六七尺七八
第一六二號
全所字中力四一四番
一畝有保安林見込面積一畝步
一松一本
全一棚七六
一棚七六
第一六三號
全所字大旗七八八番七八九番七九〇番
一畝有保安林見込面積二畝八畝步
一松一本
全一棚二一
一棚二一
第一六四號
全所字門村大字尾崎字友田一七一四番
一畝有原野實測面積三畝步
一松八本
全一棚〇〇
一棚〇〇
第一六五號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三
第一六六號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三
第一六七號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三
第一六八號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三
第一六九號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三
第一七〇號
全所大字尾崎字西ノ谷三六七七番
一畝有原野實測面積一畝二畝步
一松一本
全一棚三三
一棚三三

銅像除幕式を利用せよ

(下)

敢て戦時の二字に藉口する事なけれ戦時に於ける國民の覺悟を餘りに消極的に解するは識者の事にあらず亦眞實軍人後援の本質にあらざるなり駟者を送るに費用を省き以て恤兵献金の資に供するはよし而も節儉の美德豈に戦時にのみ要するに云はむや毛布を送り煙草を頒つて出征の將士を慰むるは甚だ好し而も之が爲に民に榮華あらば如何するに國民は非常の困難に際したるが故に其勞働を二倍三倍すると同時に其遊樂をも捨てず進んで恤兵軍資を献すると共に亦清く高き娛樂を捨てざるの餘裕を作るの覺悟なかる可からず之れ乃ち積極的なり眞實軍人後援の本質なり大國民の襟度なり

●若し予をして云はしめば二銅像の除幕式は洵に其時を得たる者なり戦時なるが故に殊に然り今回の戦場は滿洲にして滿洲は元寇と地理歴史上の關係甚だ深し故に時難の始めに當りて國民が第一に想起したるは弘安の役なり北條時宗なり鎌倉なり箱崎なり而して歐國降伏なり今や千代の松原に於て催ふざる可き除幕式は之れ等國民の聯想を束ねて一握の裡に收め漏るゝ處なく之を發現するにあらずや國民が當初の聯想によりて如何に其敬懐心の高められしやを知る者は此盛典に於て更に數層の高さを致す可きを認め得べし予が時を得たりと云ふは之の所以なり

●去らば如何にして東京と福岡とを密接せしめ如何にして福岡を活躍せしむ可きか徒ら論じて策なきは無責任の謗りを免かれず予は茲に蛇足を添ふざる可からざる也

●曰く、先づ市當局者發起者の内より東京京都大阪を始め東海道中國筋より九州各縣下に在る各新聞社に詳密なる趣意書圖面式並其他の準備を記載せる概を飛ばし式當日には各社所在地に往復す可き乗車券並に式場優待券を贈りて各社より一名宛の記者を招待し(其他天下の名士等は無論)以て式日の前後に互り大に全國に吹聴せしむ可し文明の世に新聞紙を度外するは愚の極なり殊に地方の片々たる小新聞に重きを置き距離の遠近を慮かりて(今日の如く交通の至便なる時に當り)東京大阪等の新聞紙を忘るゝは天下に吹聴する所以に非らず東京と福岡とは都人士と其情人とを密接せしむ可き唯一の橋渡しは實に東京二十余社の新聞紙たるを忘る可からず

●曰く、九鐵は無論山陽鐵道を往復大割引の交渉を済す可し能ふ可くんば官鐵にも何等かの便利を乞ふ可し、海は各沿海の船會社と交渉するも可なり、之れ、橋渡しと共に事を以て迎ふる所以なり應ずる者に於ても利益ある可し

●曰く、大に廣告せよ、獨り新聞社に就て全國に吹聴せしむるに止まらず各鐵道線路の重なる驛々にピラを送りて漏るゝ處なく之の盛典を知らしめ以上の如きは只幾分の勞あるのみ費用の如き僅少なる額を以て其効果の大なる事殆んど測り知る可からざる者あらむ

●斯の如くにして全國の人を迎へば福岡、千代松原、銅像除幕式等の語は一時日本の呼び物となる

可し、市民が活動の門は之より開くるに非らずや之れ間接の利益なり、更に斯して迎へたる幾十萬の人士をして福岡の地に親しみ歸るを忘れしむるは次で起るべき市民の責任なり、旅客をして東西奔馳、毫も飽かしむる處なきは只市民の準備如何にあり、而して此等の準備は元と博多ッ兒獨得の伎倆にあらずや、積極的國民、苟も事の浪費に属せず、浮華淫靡に流れざる限りは、旅人は喜んで其余りある財囊の口を開く可し、之れ直接なる福岡の利益なり、幾多の意味に於て福岡市を輝やかすの道に非らずや

●之を一束して云はむに、昔公千年祭の任時を夢みる者は、期をき絶好の機を逸す可からず、第五回博覽會當時の大坂を思ふ者は、此際深く省みる處なくして可ならんや (完)

福岡縣公報

令 達

●福岡縣告示第二六五號
本年告示第二五三號中移民取扱人東京移民合資會社並日本殖民株式會社取扱男女員數共ニ四十八名以内(内男二十四名以内)トアルヲ六十六名以内(内男二十二名以内)ニ改ム
●福岡縣告示第二六六號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二六七號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二六八號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二六九號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二七〇號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二七一號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二七二號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二七三號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二七四號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二七五號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二七六號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二七七號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二七八號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二七九號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二八〇號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二八一號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二八二號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二八三號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二八四號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二八五號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二八六號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二八七號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二八八號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二八九號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二九〇號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二九一號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二九二號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二九三號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二九四號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二九五號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二九六號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二九七號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二九八號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第二九九號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇
●福岡縣告示第三〇〇號
明治三十七年十月十六日 福岡縣知事河島醇

名島行

ふみ子

渡し場に来ぬ。折しも船のいでんとすると停舟に助けられて辛うじて乗りつるも。乗合もくて、船低う波にいりたるに、北風強う波を吹きたてはる、恐ろしさ、如何せむと露骨様に絶れば、傍より麻昔様、心憎さ迄落ち付き給ひて、心を休められよ、雨方、危さ半もあらば助け乗らせむ、島の男女は、女なりとも是しさの水に恐る、事あるべしや、なご容囁和ふ息地志さ。君子は危さに近寄らずと停舟様の仰せらるゝを力に、強いても船かへさせつ、漸々胸を撫で下しぬ。
餌切りとや、杭立て、網を張りたる川の中を、胸迄水に浸り、あるは小舟泛べて網打つ人の、得物競へる、そは火を獲るなりと傍の田舎人は語る。
其後ろ、鳥居高うけゆる、あれよ名島よ、今日の會社の相宜亭は、あの松の間に白壁見る磯山の家よと麻昔様説き交しぬ。
●森は彼處か さよ子
石臼う立てる華表は名島がたれます山のふも
●どなるらし 同
磯橋の下より水上かけて沙魚釣る人の跨り顔なる
●は得物やさや
●沙魚釣や渡し場のこむ砂の晴 ふみ子
●沙魚釣や潮みちて来る橋の杭 同
●沙魚釣の竿が並ぶや橋の下 同
●器待つ積然を松の水蔭に蹲まりつ、直沙地に、字を消しては消して繪をかきなとして、さよ子様

●日賀田雇聘契約 日賀田顧問の雇聘契約案は昨十一月夕韓國議政府を通過せり其大條文左の如し
●女府参文文大支大支大臣よ勅命を奉じて大

對して必ず日賀田の同意を得施行すべき事日賀田は財政事項に關して議政府會議に參列し及び財政に關する意見を隨議政府に提出するを得る事議政府の決議と各部の事務中財政に關するものは其上奏前日賀田の同意を得る事

小竹筍が如き君の舞臺に、し始め俳句募集に着手したるが如き大に人息を強うするに足るもの有之候、此の縣下俳句活動の時季に際し社務繁化等の爲め九月俳句の選句を意り居り候段は懇からず御海客被下度候△浪花の先輩月兔氏より左の玉什を寄せられ候。
九月五句 月 兔
長月の浪冷まじや竹生鳥
よさ布圍着て終る旅の九月哉
長月の花ある櫻落葉かな
蝶老いて草間に落ち九月かな
長月の夜の寝ざめや老と成る
●秋千竹、初首會等の近況は追て御進知申上べく候。(青楓)

○新柳贈 (投書願意)
骸骨堂
百聞一見に如かず交換手の御面相
大黒のお酌相間は 惠壽須顔

東京電報 (再録) (十六日發)

敵旅團長の戦死

敵公報に依ば五十四師團第二旅團長フオミン九師團第二旅團長(?)遼陽にて戦死したり

露國の運輸擴張

露國は西伯利亞鐵道を一部復線とし且つ河川水運をも大に擴張せんと計畫し

日本公債の暴落

倫敦に於ける日本公債又も暴落四歩利公債

七十ポンド八分の五、軍事公債八十七ポンド十五志十片となる

遼陽戰報

遼陽占領前記

鞍山站占領前後の戦報 (大快報の前進)

八月二十九日 遼東の北端に於て 高本 雪浪

△前進命令下る

陰曆十五夜大月八夜を照らす吾所風軍は海城を占領して後中央團は安村堡子に右翼團は甜水溝に左翼團は二臺子にあり其の如き

時は八月二十五日我所風軍の司令部より命あり曰く「馬は明日甘泉堡西方部落の西路より揚州屯の西端に互たるの線に向つて前進せしむす」司令部は午前一時迄安村堡子の南方大

軍記者は午前零時三十分迄に幕僚部宿舎前に集合すべし」云々と暫らく同一地に止まり脾肉の嘔に堪へざりし一行は此命に接して勇躍一番行李を整へ小荷を束ね脚絆と靴とを穿ちたる儘宿舎に寝ね

廿六日進發の時刻は愈來

△前進の部署

傳我の小衝突△頑強の敵を撃退△駐軍夜を徹す△宿舎敵情を語る△風雨晦冥吾所風軍は豫定の時刻を以て前進せり右翼隊は某

巨る線を確實に占領したり 我所風軍の方面は前記の如く右翼に於て敵軍より若干の抵抗を受けしも直に敵を退却せしめたり但し右翼の方面に於ては午前六時二十分揚州屯に達し該地附近の敵約一小隊と小戦闘を交へ砲聲銃響相合して耳を聳く如く彼等は稍頑強に抵抗を試みしも遂に之を撃退せり此時我隊に二人の負傷者あり敵の騎兵二名歩兵三名捕虜となり午前十一時に至りチャチンツウ北方高地より敵の砲兵は右翼團に向つて砲火を開らざるが隊亦時々これに應戦し雷の如き砲聲は稍暫らく断續して聞くを待たり吾中央團及び左翼團の陣地占領後は一の異變なく互に敵と相對峙して警戒をさし怠りなかりき當時敵はチャチンツウ北方高地よりコウバクレーンに互る高地に盛んに防禦工事を施して之を占領せるもの、如くなりし此夜右翼團は揚力堡子に中央團は高力堡子に左翼團は催家莊子に駐軍して夜を徹するに決したり

同日我右翼にありて名譽の負傷をなせるは鹿城隊中の宮下平覺 吉永熊五郎の兩氏にして宮下氏は會戦の際二間位の距離に於て敵の一小隊と遭遇し一發は見事に一人の敵兵を射殺せしも其後直ちに敵陣は氏の脚部を貫通し吉永氏は會戦の際擲槍に負傷したり

同日捕虜となりし敵の一兵卒は同じく鹿城隊中の喇叭卒の山口丈之助氏之を捕へたり氏は後家子附近なる高梁中にありて獨り歩哨に立ち居たるが高粱中より音をなして何物か現はれ来るを窺視すればせしき兵なりしを以て直ちに銃剣を彼れに擬せしに彼れは直ちに其銃器を投げ棄て手を振りて抵抗せざるの意を示して投降し來りければ同氏は直ちに之を捕ふるを得たり

露軍は目下脚氣若くは一種の疲勞

症に罹り一中隊は殆んど何れも半數に減じ又兵のズボン支那人用のそれを用ひるもの少なからず食料は毎日黒パン二斤、肉半斤、スープ三度を与す時々少あるは勿論なり

此日午後六時に陰り午後六時頃より風雨を催ふし大に前途の困難を思はしめたり 二十六日午後九時司令部の命令あり曰く「我所風軍は明日敵を撃退してチャチンツウ西方鞍部より蘇馬臺西端に互る間を占領せしむす」司令部は明日揚州屯東南畑地に集合せんとす 各部は午前三時二十分迄幕僚宿舎に集合すべし」云々

漫

梅樹

(下) 鹿城 學人

其の花を觀賞したる詩文の多きが中に川上... 春氏の「はな」や、高青邱の詩集等には、

雪溜ちて、山中に高士臥し、月明らかにして、林下美人來る、



山猿臂を伸して、争ひて淵泉を掬するが如きものあり、

花繁く香密に、或は林を出で、或は竹を隔て、或は石を抱き、或は水に俯し、

疎影横斜氷清淺、暗香浮動月黃昏、霜禽

Table with columns for names and numbers, likely a subscription or index list.

下らんと欲して、先眼を偷み、粉蝶もし知らば、まさに魂を斷つべし、

雜報

西本願寺の教學に就て 西本願寺の宿老赤松連城師は近頃某に向つて同宗教學の方針に就き語らく「我派僧侶の養成に對する教育の方針が退嬰、保守主義に逆戻りせしかの如く疑ふものあれども決して然らず

●西本願寺の教學に就て 西本願寺の宿老赤松連城師は近頃某に向つて同宗教學の方針に就き語らく「我派僧侶の養成に對する教育の方針が退嬰、保守主義に逆戻りせしかの如く疑ふものあれども決して然らず

●讀者の厚意 金三十餘宛佐賀市下今町川崎泰助、佐賀郡北川崎村字犬尾光教、同新北村字爲重妙光寺、同寺井津大塚同一同光寺、同中川崎村字早津江高木友一、同崎ヶ江田中ハル、同北川崎村字木原大庭策、同東川崎村字徳富片田健策、以上の

日本郵船株式會社 出帆廣告

鹿兒島丸 十二月廿四日午後四時出帆
小樽丸 十二月廿六日午後四時出帆
山城丸 十二月廿八日午後四時出帆
佐渡丸 十二月卅一日午後四時出帆

威海丸 十八日正午門司基隆行
弘濟丸 每月廿三日正午門司基隆行

支海丸 十六日正午下關長崎釜山仁川芝罘行
若狹丸 十六日正午下關長崎釜山仁川芝罘行

尼崎瀛船 大阪出港 大阪 共同組
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶
敬神丸 十三日 關博多唐津伊萬里平戶

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

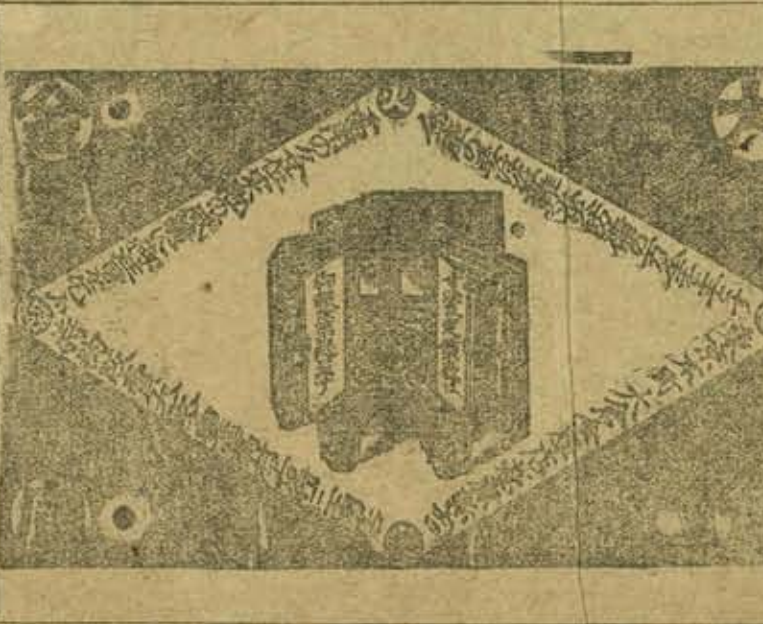
臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行

臺南丸 廿四日正午門司基隆行
臺北丸 廿五日正午門司基隆行
千代丸 廿六日正午門司基隆行
舞子丸 廿七日正午門司基隆行



REFINED PETROLEUM TOSUKI IKARI NET 6%
REFINED PETROLEUM TOSUKI ROSHI NET 6%
東京日本橋蛸壳町三ノ上
東京日本橋蛸壳町三ノ上

大坂稅關
大阪稅關
大阪稅關

來九十一日授業開始
英國人清國人
大阪外國語學校

周遊見聞記

紐育の地上と 倫敦の地下

T. T. 生

紐育の市中には二十階以上三十階近頃の家あり、
 且も市街を通じてかゝる宏壯の建物が軒を列ね
 居る譯にあらず矢張り十階位のものも普通として
 その間處々に雲を衝くばかりの高き建物が時立せる
 なり、されば今日においては紐育の市街は水晶石
 の結晶体を見るが如く或る點は無暗に高く或る
 は此處に下く屋根の面は不規則千萬なれど高き家
 屋を建築すること一般の趨勢にして日々改築工事
 の盛なるを見れば近き將來において市中は怪物然
 たる高層の方ちくなるべく少くとも同市の商業中
 極地たる南部普通ダウンタウンと稱する市街は
 大抵二十階以上の建物となるべく思はる、而かも
 同市が斯く空中に向て發達するについては同時に
 危険の機會を多くする虞れあり、彼地にありては
 わが邦の如く地震の憂ひはなけれど一朝火災の際
 には人命を救護すること甚だ六ヶしく遂に市政者
 をして一定の高さ以上の家屋は建設せしめざる方
 針を執らんとその説もあれど紐育の地勢は他に家屋
 を建つる餘地もなくまた中心を他に移す譯にも行
 かざればかゝる制限論の間に市は矢張り空中は向
 てペン／＼發達しつゝあるなり、尤も一方には建
 築術も大に進歩し今日の處火災の危険などは大抵
 防禦し得る筈なり即ちその構造は先づ鐵材を以て
 縦横に組立てこれに煉瓦若くは石材を嵌め込み各
 階上の床には火防壁を敷きて上階にも下階にも延
 燒せざる準備をなせり、然れどもこの火防壁が果
 して何れの場合にも延燒を防ぎ得るものなりやは
 その適用の極めて最近の時日に屬するを以て未だ
 充分の經驗を得るに至らず隨て消防夫の方にあり
 ても市中家屋の高まるに共にこれに感ずる人命救
 護の術に苦心し最初は長き梯子を作りてその裏側
 に粗布を以て作れる袋を縫ひつけ之を火災のある
 家の窓に差立つれば階上の人はその袋の中に入り
 て下る仕掛けとし泰西の消防夫は今尚多くこの袋
 階子を使用すれど紐育にありては家屋の高まるこ
 と階子を長くするより早く終にこの袋階子も一般
 に使用する能はずなりしかば近頃は廣き新を作り
 これを火災ある建物の籠に張りてその上に人の飛
 下るやうになせり、腦分頼りなき方法なれど他に
 名案もなきものから先づポンなことで無茶を濁し
 つゝあるなり、シカゴ市民は萬一の場合に於ける
 通路を講ずるよりも平常火を失せざることに注意
 すると共に火を失するも成るだけ大丈夫なるもの
 を選ぶに力めて室内の温氣を保つには瓦斯暖爐を
 用ゐたり蒸氣管を引用したりせり又各階の要所に
 は所々に消火器を置きて失火に備ふる中に火防床
 の設備は高壯の建物に於て最も必要の條件となり
 その設備の有無は家賃にも影響する位なり、され
 ば借主は火防床のある家であれば多少高直なりと
 もこれを撰ぶに躊躇せず殊に旅館の如き火防床の
 設備を以て客を呼ぶに最も必要の條件とし新式の
 旅館が廣告をなすに當りてはその装置を吹聴せざ
 るものなし
 要するに紐育の家屋は高く空中に發達すると共に

毎階の床敷が恰も他市における商家との階壁の如
 くたりて左右兩隣り火事を防ぐことはサテ指さし上
 階若くは下階よりの延燒を喰止めること專一にし
 て自らの都合と其の趣を異にせり
 米國百年間の貿易 北米合衆國における千
 七百九十年より千九百年に至る百年間の外國貿
 易を十年毎に統計したるもの左の如し

年次	輸 入	輸 出
一七九〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一八〇〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一八一〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一八二〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一八三〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一八四〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一八五〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一八六〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一八七〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一八八〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一八九〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇〇年	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

以上の如く米國における外國貿易の趨勢は最初の
 輸入超過より漸次輸出超過の状況に變じ殊に昨年
 は二十六億以上の輸出超過を示し千七百九十年
 以來累年の輸入超過を一度に決済し合計に於て二
 十億四千六百五十八萬八千二十一弗の輸出超過を
 見るに至れり
 愛國銀行臨時銀業の成行 東京地方は今や小
 賣銀行並立の弊に陥り昨年二三銀行の破綻を見た
 るが今又愛國銀行が内部の整理をなすため三十日
 間臨時休業をなすよし東京電話の報するが如し今
 その成行を聞に同行は昨年十一月既に不渡手形を
 生じ交換代理をなせる明治商會銀行より交換停止
 を申請せられんとせしがその際には百方奔走の結果
 調査して僅に危急を逃れ爾來内部の整理中なりし
 が何分銀行社會の信用地に墜ちたる際とて爲替は
 常に故障を生じ預金は取付けらるゝ一方となり殊
 に從來同行が機關としてその預金を取扱ひ居たる
 日本生利保險會社も營業素部の結果愛國銀行より
 資金を引出すとも預入るゝことなく急遽の境
 遇に陥りしかば終に明治商業銀行手形交換を停止
 するの己むを得ざる場合となりその旨を愛國に内
 通すると同時に當分休業して内部の整理をなすべ
 しと報告に及びたるより斯くは三十日間臨時休業
 するに至りしなり而して重役等は目下その救済
 策に奔走中なれど頭取小笠原子爵を初め重役中に
 は資産信用の充分なるものなければ救済の實を果
 ぐるに容易ならざるべく思はる
 岡山農工銀行の重役改選 同行の重役は進
 歩自由兩派より各三名を出しその平衡を保ちしも
 本年の改選期に當り兩派互に自黨の勢力を増加せ
 んど運動中なりしが何分同行の總株數五萬の内一
 萬五千は縣廳の所有に屬し残り三萬五千は百株以
 上の株主十八名を除き他は七千餘人の間に分配
 せられ居ること、てその委任狀を徵收する容易の
 業にあらず且つまた如何に運動するも重役選舉權
 は殆んど大株主たる縣知事の左右する處せなるを
 以つて兩派とも遂に重役の任運を知事に一任する
 の外なきに至り去十一月の總會には知事の指名説
 に決しその結果取締役は總て再任となり兩派とも
 二名を得たるが監査役には柳本瀧三郎(進歩)土居
 通信(自由)兩氏の再任の外新任として自由派の岡
 崎善太郎氏を挙げたれば終に自由派優勢の姿とな
 り公平なる株主中には知事が何故中立派の一人を
 指名せざりしかと疑ふものあるよし尚同行は當日
 の定式總會にて一割の配當案を可決せり

海物 各船 小樽 倉庫 傳せ 散の 路も 當の 如し 容易 清商 した 非常 に出 船の 年營 船の 如き 委な 合に 關し 度な 角を 會を 三各 砂橋 以て 對運 日本 城兵 りと 紀 上至 山縣 第二 利益 草有 開き 來綿

日本郵船株式會社出帆廣告

●伏木丸 十四日午後四時橫濱行
●近江丸 十四日午後四時尾道下關敦賀七尾伏木
●天津丸 十五日午後四時橫濱行
●威海丸 十八日正午門司基隆行
●弘濟丸 每月廿三日正午門司基隆行
●長門丸 十四日正午下關長崎釜山元山行
●八幡丸 十五日午前十時門司長崎香港マニラ
●若狹丸 十六日午前十時門司香港新嘉坡檳榔嶼
●玄海丸 十八日正午下關長崎釜山元山行
●高砂丸 十五日午後四時 伯耆鐵道
●原田汽船大阪店 山本組合會社
●船田川丸 十七日 后二時 若松 瓜生 回瀨店
●松浦丸 十四日 后二時 中津 各港 若松行
●正義丸 大阪川口山本組合會社
●常磐丸 大阪川口山本組合會社
●壽丸 大阪川口山本組合會社
●三金澤丸 西貢(西貢) 汕頭 廈門 汕頭 廈門 汕頭 廈門
●五洋丸 釜山 本浦 仁川 行
●陽丸 西貢 汕頭 廈門 汕頭 廈門 汕頭 廈門
●新高知丸 高知行 十四日午後三時大阪發
●尼崎瀛船 大阪 共同組
●敬神丸 十四日 關西 兵庫 各港 伊丹 川口
●電信丸 十五日 高松 多度津 中國 各港 伊丹 川口

當興行
來ル廿四日迄
浪花座
一月十四日

西鐵道
男山八幡祭
一月十五日より十九日迄
網島より長尾ゆき
二三等往復 半あん
加茂放出間各驛より長尾行
二三等往復 三割引
切符通用二日間

大阪商船株式會社出帆廣告
●臺中丸 廿四日正午 基隆行
●臺北丸 十五日正午 基隆行
●須磨丸 廿二日正午 基隆行
●千代丸 廿七日正午 基隆行
●舞子丸 十六日未明 神戶 仁川 行

●大野丸 十五日 後二時 神戶 高松 多度津 尾道 三原 志賀 伊豆 伊豆 伊豆 伊豆
●天龍丸 十四日 後二時 神戶 高松 多度津 尾道 三原 志賀 伊豆 伊豆 伊豆 伊豆
●吉野丸 十四日 後二時 神戶 高松 多度津 尾道 三原 志賀 伊豆 伊豆 伊豆 伊豆
●錦川丸 十四日 後二時 神戶 高松 多度津 尾道 三原 志賀 伊豆 伊豆 伊豆 伊豆
●吉田丸 十四日 後二時 神戶 高松 多度津 尾道 三原 志賀 伊豆 伊豆 伊豆 伊豆
●吉野丸 十四日 後二時 神戶 高松 多度津 尾道 三原 志賀 伊豆 伊豆 伊豆 伊豆
●錦川丸 十四日 後二時 神戶 高松 多度津 尾道 三原 志賀 伊豆 伊豆 伊豆 伊豆
●吉田丸 十四日 後二時 神戶 高松 多度津 尾道 三原 志賀 伊豆 伊豆 伊豆 伊豆

石炭一手販賣廣告
●一本松炭 一手販
●二本松炭 一手販
●向坂由久馬
●市原商會

被服古品入札廣告
●特種曹長夏衣拾二個外四拾壹點
●此入札保證金ハ各自見取金高ノ百分ノ五以上
●右現品并ニ入札心得書契約書捺印シテ一月廿三日
●於テ現品并ニ入札心得書契約書捺印シテ一月廿五日
●日午前九時迄入札ハ即時開札ス此契約ハ被
●服委員首座陸軍歩兵少佐増田通誠結ス
●明治三十四年一月九日 歩兵第八聯隊

工事請負入札
●大阪工業學校校舎工務新築工事
●右請負價ハ本工務局見取ノ
●明治三十四年一月十日
●文部省總務局建築課

第十師團聯合二泊演習 聯合二泊演習について
第十師團聯合二泊演習 聯合二泊演習について
第十師團聯合二泊演習 聯合二泊演習について
第十師團聯合二泊演習 聯合二泊演習について
第十師團聯合二泊演習 聯合二泊演習について
第十師團聯合二泊演習 聯合二泊演習について
第十師團聯合二泊演習 聯合二泊演習について
第十師團聯合二泊演習 聯合二泊演習について
第十師團聯合二泊演習 聯合二泊演習について
第十師團聯合二泊演習 聯合二泊演習について

周遊見聞記

紐育の地上と
倫敦の地下

紐育に於ける家屋の構造が他の都會と大にその趣を異にせることは以上述べたる如くならば更にこれより市中街の景況を語らんに同市は普通街路の外に無数なる立形方の縦横道路を有せるなり、即ち地上より二階三階と二十何階の空中に行き通路と各階を横に行く通路とあり、歐洲の各都會にも一建物内に幾多の異りたる商店さては家族を有するものあれど尙大會社銀行等は一店にて一家屋を構ふるもの少からず、然れども紐育に至ては建物の大なるだけ全市の家屋悉く雜居といふも差支なく中には大會社銀行にして最初より自家特占の目的をもつて三四階の建物を築造したるものなきにあらざり、甚だ稀れに指を屈するに足らず、その他は銀行も會社も商店も悉く同一家屋に群據し一の建物内に二百内外の商店を有するもの珍らしからず、是等の建物にありては地上の第一階には普通賣品を商ふ商店若しくは料理店の如きものさては鐵道汽船の代理店にて切符の賣買をなすもの等道路の行人を相手にする商店を置き銀行の如きは二階三階に其居を構ふるもの少からずそれより以上四階五階となりては諸會社商店の事務室などあり、此等は商業中樞地の建物に於る内部の店別なるか其他少しく劣りたる町にても同様に寫眞師と醫師とは同階におり辯護士の事務所は工業顧問の事務所とは廊下を隔て相對するなど雜居の有様には變りなし、されば一の家屋といふも其家屋は共同のものにて家の各階に一種の大道と横町あり車輛の往復こそなけれ郵便配達も其中を走り巡査も來るとあり普通男女の行交ふは素より街路と變りなく出入は自由自在なり而して地上と各階との往來は電氣若しくは水壓の昇降機に依る、昇降機は家の大きさと事務の繁閑により其數を異にすれどウォール街道傍の大建物に至りては五六箇所の昇降機ありて一箇所に三四の昇降機を備へ高き上階に赴く直行のものもあれば各階順次に上下するものあり貨物のみを取扱ふものあり、斯て紐育にては或一軒の店を訪はんとするも何町何番だけにては充分ならず何番の家何階といふことを知らざるべからず、街路より見れば第何番の家には相違なれどもその家の中に建物によりては二百以上の番號ありて何番の店は第何階の東の壁廊下にありとか何番の會社は第何階の大廊下の西側なりとか家に這入て又家を探ぬる必要あり、されば少しく大なる建物にありては必ずその入口に番號札を掲げ來客の便利に備ふ、これを要するに紐育の市街は市街の上にもまた市街あるものといふべく試に正午より一時頃にかけて商業地の街路を歩行せんか路上一面人の堤を築き男女老弱の晝食に行違ふもの夥しく我邦なれば老居のハチカ祭禮の俄に始まりたるかと疑はる、ばかりなり、誠にさもあるべきことにして平面の地積は廣からざるも二十階以上の大層建ゆる處にては空中に廣がる面積更に大なるよりその中に居るもの頗る多數なるが一時に外に來ればなり

紐育の市街一周遊見聞記は高架鐵道にして是れまた空中計畫なるを以て倫敦の地下鐵道と反對を現はしブルータン大橋は高くして下に汽船を通過せしむるに反し倫敦のテムズ川には陸道ありて頭上に橋を架けも全く異れ、因に近時紐育にては市の交通非常に煩雜となりこの高架鐵道と各街に通ずる電氣鐵道にては充分その用をなすに足らずさりとて他に之を設くるの餘地なければ近頃地下鐵道の工事に着手しつゝあり、されば終に紐育は空中の擴張のみにては満足せず倫敦の如く地下の擴張をもかぬるに至らんか

砂糖の増税と見越輸入

今回議會に提出せられたる各増税中砂糖に課するものはその課税方法と課税の時期の如何により外國貿易に影響し又金融にも激變を來す虞れなしとせす今回の課税案によれば砂糖百斤につき第一種一圓より第四種二圓八十錢と夫々差あり各種の區別は果して如何なる標準に基きや未だ明かならざるも今日の直税を以てこの課税金を計算する時は各種平均三割弱の課税となるものなれば商人はその課税前に砂糖の輸入を計るに相違なし今我國に輸入する各種砂糖の總金額を見るに左の如し
廿九年 一三、七七一、七三三 卅二年 一七、五五六、〇三九
三十年 一八、七九九、〇九一 卅三年 二六、六〇七、八九五
卅一年 二八、三八九、〇三六

右に依てこれを見れば昨年の増加は一昨年に於て輸入額の少かりし反動なれども卅一年に於て空前の大輸入を見たるは即ち關稅率改正の結果なり但だ砂糖は他品の如く長く貯蓄するに困難なるを以て二年分若しくは三年分といふ巨額の見越輸入をなす能はず現に前年輸入の際にも白砂糖は葡萄酒の兆候を呈したるより荷主は安直にてこれを投資し當座轉賣會社にて再製したることあり又赤黒糖も糖目を減じて輸入商の失敗に終りたるなどその品質上より後年に持す趣ほどの輸入は出來されど而かも年内需要の品ぐらゐるはこれを貯蔵し得ざるにあらざるれば當業者は課税前その輸入をなすに躊躇せざるべし現に昨今當業者は表面課税に對し反對の態度を執りながら到底その免れるべからざるを察して着々その買入に注意し現に昨今賣行の不振にして二三十錢方は直押しあるべき時期なるに拘はらず直段は却て昨年末より二三十錢方上通しその間五十錢内外の直税を見るのみが外糖は獨逸糖も車糖も入着すれば直に沖波しにて取引さる、位の景況なり而して未だ約定注文を發せざる所以はその課税の期日明瞭せざるがためにして若しこれが關稅改正の時の如く六ヶ月なり十ヶ月なり後ならば今日俄に大輸入なきともその間際に至りて多額を輸入するに相違なく或は一二月月の後ならばその間に香港より輸入すべく現に香港埠頭には車糖の輸入期を短く居るあり要するに増税決定こそその實施期日との間に一ヶ月以上の間隙あり以上は大輸入を免かれざる形勢なり而かも若し外糖の課税を内地砂糖商の賣上高によりて徵收する時は一時の大輸入を防ぐべければ斯くては徵稅法類雜となりて随分脱稅の掛念もあり遂にその目的を達する能はざるべければ多分政府は輸入糖の稅關を遷れて商館の倉庫に入りたる時その課税をなすなるべし果して然らば到底見越輸入の避くべからざると共に最も迷惑を成するは内地の精糖業

紐育に於ける家屋の構造が他の都會と大にその趣を異にせることは以上述べたる如くならば更にこれより市中街の景況を語らんに同市は普通街路の外に無数なる立形方の縦横道路を有せるなり、即ち地上より二階三階と二十何階の空中に行き通路と各階を横に行く通路とあり、歐洲の各都會にも一建物内に幾多の異りたる商店さては家族を有するものあれど尙大會社銀行等は一店にて一家屋を構ふるもの少からず、然れども紐育に至ては建物の大なるだけ全市の家屋悉く雜居といふも差支なく中には大會社銀行にして最初より自家特占の目的をもつて三四階の建物を築造したるものなきにあらざり、甚だ稀れに指を屈するに足らず、その他は銀行も會社も商店も悉く同一家屋に群據し一の建物内に二百内外の商店を有するもの珍らしからず、是等の建物にありては地上の第一階には普通賣品を商ふ商店若しくは料理店の如きものさては鐵道汽船の代理店にて切符の賣買をなすもの等道路の行人を相手にする商店を置き銀行の如きは二階三階に其居を構ふるもの少からずそれより以上四階五階となりては諸會社商店の事務室などあり、此等は商業中樞地の建物に於る内部の店別なるか其他少しく劣りたる町にても同様に寫眞師と醫師とは同階におり辯護士の事務所は工業顧問の事務所とは廊下を隔て相對するなど雜居の有様には變りなし、されば一の家屋といふも其家屋は共同のものにて家の各階に一種の大道と横町あり車輛の往復こそなけれ郵便配達も其中を走り巡査も來るとあり普通男女の行交ふは素より街路と變りなく出入は自由自在なり而して地上と各階との往來は電氣若しくは水壓の昇降機に依る、昇降機は家の大きさと事務の繁閑により其數を異にすれどウォール街道傍の大建物に至りては五六箇所の昇降機ありて一箇所に三四の昇降機を備へ高き上階に赴く直行のものもあれば各階順次に上下するものあり貨物のみを取扱ふものあり、斯て紐育にては或一軒の店を訪はんとするも何町何番だけにては充分ならず何番の家何階といふことを知らざるべからず、街路より見れば第何番の家には相違なれどもその家の中に建物によりては二百以上の番號ありて何番の店は第何階の東の壁廊下にありとか何番の會社は第何階の大廊下の西側なりとか家に這入て又家を探ぬる必要あり、されば少しく大なる建物にありては必ずその入口に番號札を掲げ來客の便利に備ふ、これを要するに紐育の市街は市街の上にもまた市街あるものといふべく試に正午より一時頃にかけて商業地の街路を歩行せんか路上一面人の堤を築き男女老弱の晝食に行違ふもの夥しく我邦なれば老居のハチカ祭禮の俄に始まりたるかと疑はる、ばかりなり、誠にさもあるべきことにして平面の地積は廣からざるも二十階以上の大層建ゆる處にては空中に廣がる面積更に大なるよりその中に居るもの頗る多數なるが一時に外に來ればなり

紐育の市街一周遊見聞記は高架鐵道にして是れまた空中計畫なるを以て倫敦の地下鐵道と反對を現はしブルータン大橋は高くして下に汽船を通過せしむるに反し倫敦のテムズ川には陸道ありて頭上に橋を架けも全く異れ、因に近時紐育にては市の交通非常に煩雜となりこの高架鐵道と各街に通ずる電氣鐵道にては充分その用をなすに足らずさりとて他に之を設くるの餘地なければ近頃地下鐵道の工事に着手しつゝあり、されば終に紐育は空中の擴張のみにては満足せず倫敦の如く地下の擴張をもかぬるに至らんか

日本郵船 出帆廣告

威海丸 十八日正午門司基隆行
弘濟丸 每月廿八日正午門司基隆行
尼崎汽船 大阪出港 共同組

原田汽船 大阪出港 共同組
正義丸 大阪出港 共同組
常磐丸 大阪出港 共同組

日出港 高松多度津川ノ江三嶋今治三津
三金澤丸 西濃七島 立賣出市中同商店

石炭一手販賣廣告
二本松炭坑主 向坂由久馬
賣方市原商會委託候ニ付此段

二本松炭 (方言一放炭)
右一手販賣方引受候ニ付多少ニ不

市原商會 (電信路符モ一)
領收證紛失廣告

日支テレジンダ商會
昨日報上株式會社前百五十二銀行決算報告中資産

臺中丸 廿四日正午門司基隆行
福岡丸 廿六日正午門司基隆行
千代丸 廿七日正午門司基隆行

天龍丸 十六日
龍田丸 十七日
扶桑丸 十九日

日本鑄鋼所
鑄鋼業開始廣告
大阪西成郡北傳法村 鑄鋼所(西成區五番)

日本鑄鋼所
鑄鋼業開始廣告
大阪西成郡北傳法村 鑄鋼所(西成區五番)

大阪市水道事務所
購買品
此入札保證金ハ入札金高廿分ノ一以上

周遊見聞記

紐育の地上と 倫敦の地下(四)

生

紐育の市街が漸次空中に向けて發達したるは地勢上の關係與へて最も力あること前記の如くなれど、倫敦に至ては海に連なる、ことなく、川といふもテムスの一流にして、それすら紐育のハドソン若くはイーストの如く大ならざれば架橋自由にして、大阪の淀川東京の隅田川と一般少しも市の陸上交通を阻害することなし、且つ土地も平坦なれば市は四面何れの方面に向ても欲するがままに擴張する、なり、大商業の中樞地は市中の市と言はれ、舊市の圍内に限られるれども、商店の櫛比する處は細長き紐育に唯一の廣小路あることは全くその趣を異にし、縱横の諸街に繁昌なる光景を見るべし、これ恰も神戸には元町通りの一筋商賈の最繁昌せる街路なるに、大阪には心齋橋筋より平野町通りあり又松屋町筋あるが如し、斯くの如くして倫敦の地勢は紐育と大にその趣を異するが故に強て紐育の如く狭き一部の地點に群居するに及ばず隨て建築も彼の如く高くする必要なければ、他にもまたこれを高くする能はざる理由あり、ソハ倫敦が千年近く英國の國都となり、特にトラファルガーの海戦に次でウォートルローの大艦以後今日に至る百年間は、全く世界商業の中心地となり、諸般の制度悉く具備して建築の如き殆んど改造の出来ぬまで堅固のもの多く、今日紐育に於て取毀たれつ、ある粗造の家には非常の相違あるが故なり、加之英國人の氣風として保守の念強く由緒ある建物とあれば假令少々は往來の故障となるもこれを存するくらゐにて、先祖傳來の家には建増修繕を施すことも根底より改築するなどは思ひもよらず彼の英、蘭、銀行その他二三の建物が舊市の熱鬧中に今も一階造りのまゝに存してその貴なるをイバるか古きを誇るかは知らねど、乘に角倫敦の名物となり居るを見るも英國風の一斑を推察すべし、かゝる有様なれば隨てその市街も平面に物限すること早やけれど、各街の外、觀は十年前も今日も一向變遷の痕なし、然れども商業の中樞地に至りては多少の廣狹こそあれ、矢張り一部の土地に限らるゝを以てその地積に狹隘を感じるは紐育と同様なり、而かも紐育の如く空中に向けて發達すること能はざればその反對に倫敦は地中に向けて發達しつゝ、あり、試に舊市近傍の市街を見るに銀行の金庫も地下にあれば商品の置場も地下にあり料理屋も酒屋も縁の下にて散髪屋も穴蔵に店を開き洗濯屋を初め手内職をなすもの皆な地下にあり各街の人道は地下店の天井にして、こゝに厚き硝子を鐵板に符めて光線を入る仕掛となせり、單に地下店の多きのみならず市街の往來最も頻繁なる割合にその道路の他都會に比し極めて狭きが故に場外の町にあらざれば街路に軌道を敷くを許さず、是に於てか紐育の高架鐵道に對する地下蒸氣鐵道あり、地下電氣鐵道あり、前者は倫敦市を一週し後者はテムス河底を潜りて市の南部に達

の休所を設け、警察官は殆んど總出の光景にて、警戒せり有様千五百二十四名の内、投擲せし者九百四十四人、野野選期長、監督官安内、参事官、山本、府屬等、其他四名の立會人にて午後三時過より、山本、任命し直に神通川畔千歳館に審査會を開き、來廿三、日結了すべく尤も結了までは審査員一同會場にあ、後當港三、

本年の輸出米市場

昨年一年の米作は豊饒なりしを以て、昨二年は一月中に一萬九千噸、二月は一萬七千噸、三四兩月は何づれも一萬三千噸の多量を輸出したるも、昨年は一昨年不作にて約定口も少なく、一月の輸出額僅かに一千七百噸、二月は九百噸、三四兩月は何づれも一千四百五噸に止まり、昨年中神戶よりの輸出高は二萬一千五百噸にして、一昨年中に比し六萬三千五百噸といふ多額の減少を現はしたり、而して本年の輸出米は如何にといふに、昨年の米作が九分作位なる上に、本年の米質は撻減り甚だしければ、先づ二割減位と見て可なるべく、若し本年の麥作にして不印ならんには、或は昨年の十八圓てふ相場を再現するやも圖る可からず、加ふるに本年は九州地方の農家の懐中あまりに淋しからざる模様にて、右から左に正金を渡すやうな買入方法を講ずるも尙彼等は賣放さざる態度をとり居れど、從て今日までの約定も少なく、先づ本月中の輸出額約三千噸位に止まるべく、又今後も目下の價格を維持するに於ては二月に入りても到底さしたる約定の出來するとなかるべく、或は本年中に僅々一萬噸内外の輸出を見ることも六ヶ敷からん加ふるに、目下約定しつゝ、ある價格は四圓九十錢乃至五圓格好なるを以て到底この相場にて真正の日本産一等米を輸出すると出來得べき善なし、試に今日受渡をなしたつ、ある米質を三十一年度米に比すれば、實に二等以下の格にて一昨年の産米に比するも尙は、昨年からざる遜色を見る故に、本年の輸出米が今月末より來月初旬にかけ一度歐洲の市場に出づる曉に、はこれが日本産の一等米なるかと歐洲をして驚愕の念を惹起せしむるや、圖るべからずその結果、來年度に及ばず影響は如何恐らくは彼等歐洲人をして高價なる日本産米を購買するの必要なかるべき思想を抱かしめ、本邦の輸出米市場に恐慌を來すならん故に、多少將來に望を有したる商人は今日の如き安直にては外商の約定に應ぜざる態度を採りつゝ、あり尤も舊正月前にいたり、備前備中及び播州地方は勿論九州の農家が幾分か倉出しをなすにつれて價格の低落を來すに、いはば多少の約定出來することあるべし、又近來輸出米商が米穀の買入に非常に困難を感じることは、地方の農家が從前の如く一時に多額の米穀を賣出す、亦々出穀する方針を採りて、少しにても取價めて買入をなすときは、非常に高直を唱ふる、一は取引所の受渡米に、か甚だ品質粗悪にして、その十分一だも輸出米に適せざるべく、これら故に、將來輸出米の獎勵をなさんとするには、第一善手として取引所の受渡米の品質

日本郵船株式會社 出帆廣告

河野浦丸 廿一日午後四時橫濱發函館小樽行
熊本丸 廿一日午後四時尾道下關境敦賀伏木佐
高砂丸 廿六日午前六時津濱橫濱行
春日丸 廿六日午前六時津濱橫濱行
弘濟丸 每月十八日正午門司基隆行
基隆行 神戶鐵道棧橋留所切符購入乘船得
基隆行 神戶鐵道棧橋留所切符購入乘船得
山口丸 廿三日午前十時釜山行
越後丸 廿七日午前六時下關長崎仁川行
長門丸 廿七日午前六時下關長崎仁川行
相模丸 廿二日午後四時 伯耆境着

大阪商船株式會社 出帆

臺中丸 廿四日正午 基隆行
福岡丸 廿六日正午 神戶發 基隆行
釜山丸 廿八日正午 釜山發 基隆行
千代丸 廿二日 未明大阪發 馬關長崎嚴原釜
信濃丸 廿二日 未明大阪發 馬關長崎嚴原釜
筑後丸 廿七日 未明大阪發 馬關釜山木浦
白川丸 廿七日 未明大阪發 馬關釜山木浦
木曾丸 廿二日 後二時大阪發 三津濱兒嶋大
隅田丸 廿二日 後七時神戶發 三津濱細嶋油
富士丸 廿三日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
平安丸 廿一日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
萬歲丸 廿三日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
天龍丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
龍田丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
吉野丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
大野丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
綠川丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
錦川丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
金城丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
共草丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
吉井丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
加古丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
名取丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
瑞慶丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
生田丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油

大野丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
綠川丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
錦川丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
金城丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
共草丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
吉井丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
加古丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
名取丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
瑞慶丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
生田丸 廿二日 後二時神戶發 三津濱細嶋油
臺灣沿岸線 每月六回 宮崎丸 愛國丸
上海漢口線 每月三回 大元丸 大亭丸
淡水香港線 每月三回 大元丸 大亭丸
安平香港線 每二週水曜日 發 安平丸
福州香港線 每二週水曜日 發 安平丸

取扱 大坂商船會社

原田汽船 出帆 神戶 三上合資會社
金剛丸 出帆 神戶 三上合資會社
太湖丸 出帆 神戶 三上合資會社

尼崎瀛船 大阪出港

每日午前九時 兵庫播州各港ヲ經テ釜山越行
每日午後二時 岡山航路各港ヲ經テ釜山越行
崇敬丸 廿一日 多度津門司馬關博多長崎
敬神丸 廿三日 多度津門司馬關博多長崎
帝淨丸 廿三日 多度津門司馬關博多長崎

函館丸 大阪出帆

函館丸 廿二日 函館發 大阪行
新高知丸 廿二日 新高知發 大阪行

宗谷丸 境舞鶴行

宗谷丸 廿一日 境舞鶴發 大阪行

商業登記公告

硫酸粉製造株式會社登記事項左ノ通變更ス
大阪府東區伏見町四丁目三十九番邸小西半兵衛

堺區裁判所

泉澤木綿株式會社登記事項左ノ通變更ス
再任 白井治平 原藤十郎

岸和田區裁判所

株式會社三嶋實業銀行清算人選任ノ登記
大阪府三嶋郡千里村大字佐井寺四千壹番邸 和仁源 治

商業登記公告

三嶋物產株式會社登記事項中左ノ通變更セリ
取締役竹中寬治ハ明治三十三年十二月二十八日

茨木區裁判所

同府同郡同村大字山田中七十四番屋敷 竹中寬治
同府同郡同村大字山田下百十四番屋敷 竹中寬治

茨木區裁判所

同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實
同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實

茨木區裁判所

同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實
同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實

茨木區裁判所

同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實
同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實

茨木區裁判所

同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實
同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實

茨木區裁判所

同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實
同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實

茨木區裁判所

同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實
同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實

茨木區裁判所

同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實
同府同郡同村大字山田下三十七番屋敷 森 實

周遊見聞記

紐育の地上と
倫敦の地下(五)

T T 生

いま倫敦の地下装置につきその著しきものを選んで簡潔にこれを説明せんと欲す、第一に地下鐵道より始むるに先づ何故に倫敦の極要なる地區には街上鐵道の敷設なきや知らざるべからず、倫敦の場末には新計畫になりし區劃然たる道幅の廣き道路もあれど肝腎なる極要の地區はその建設の古きだけ街道に不規則なる折曲をなし道幅も頗る狭し而かもその狭き所は交通の最も頻繁なる處にして今日にては殆んど充分往來の疏通を辨する能はざる位なり、但だか、る人馬絡繹車轂撃の中に一の死傷なく衝突なく鬼にも角にも無事に一時間幾萬の馬車を通行せしむるは街道の往來を區別して右側は行くもの左側は來るものと定めて寸尺もこれを犯さしめざるによる、若し倫敦の舊市邊にて車馬を勝手次第に動かし不規則なる通行をなさしめんには倫敦の往來は忽ち杜絶して身動きもならぬこと、なるべし、この邊の差別は單に泰西の規則正しき人間の性質に基きたるにあらずして實際の必要より起りしなり、かゝる混雜なる處に軌道を布設せんとするも到底行はるべきにあらず、交通を助くるための設置は却て往來の滯留を來すのみなれば今尚倫敦市中の尋常交通機關はオムニバスと稱する二階附の乗合馬車を使用し、極要地區の市街鐵道はこれを地下に布設せるなり

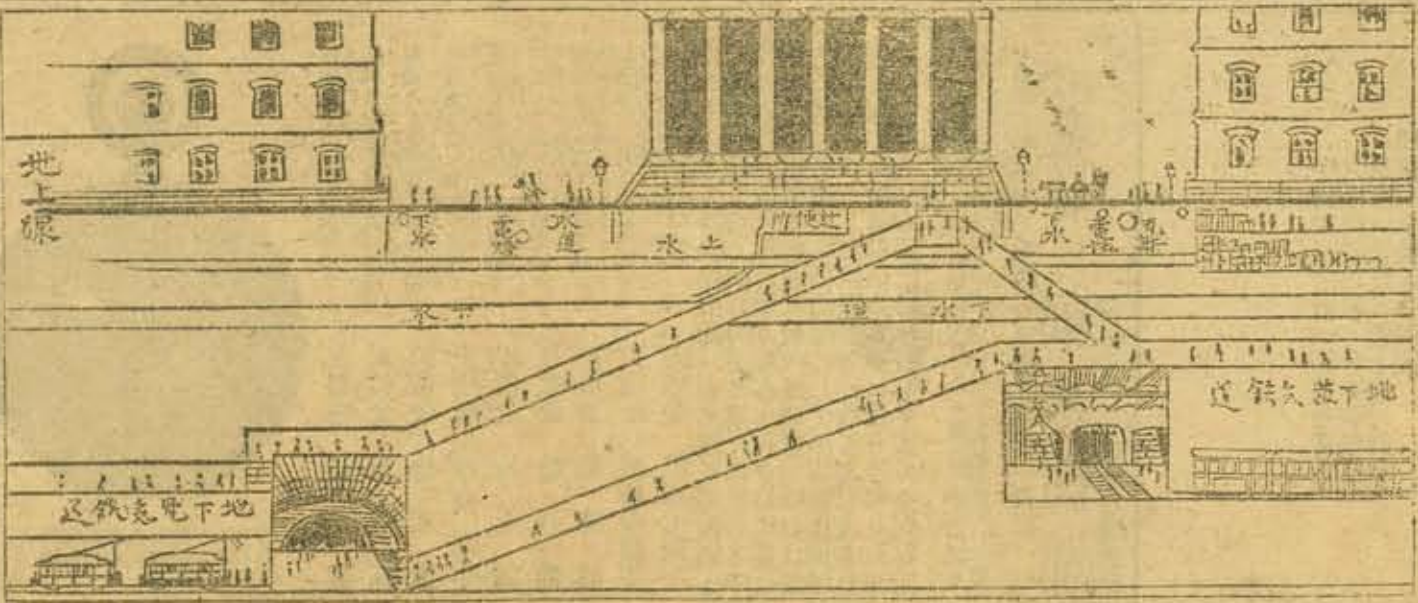
倫敦地下鐵道の最も大なるものをメトロポリタン鐵道會社といひ倫敦市の内部を一週し所々に支線もありて市の交通の半分はこの地下鐵道によりて辨せらる、動力は蒸氣なれども近くこれを電氣に改めんとする計畫あり、この鐵道の建設費は一哩平均百萬磅(わが一千萬圓)といふ驚くべき多額なれど更に四哩二十鎮の地下延長を有する「市及南倫敦電氣鐵道」に至ては一哩の建設費二百萬磅といふいよ／＼驚くべき巨額なり、この鐵道の主力はチームス河底を潜る隧道にありて來往別々の筋道を有せり、又昨年夏吾輩が倫敦に滞在せる頃開通式を挙げたる「倫敦中央電氣鐵道」に至ては六哩の間倫敦市の最も繁華なる中央地點を横斷し前記のメトロポリタン鐵道の圓形に對し徑となるべき線なり、この鐵道の建設費は一哩三千萬圓にて恰も日本銀行の資本と同額なりといふ、目下開業せるは以上三地下鐵道の外に「クオートルロー及市鐵道」と稱する一哩四十鎮の電氣あり、コハ倫敦舊市の中心よりその北部なるクオートルロー停車場に達するものなり、その他既に國會の認可を得若くは計畫中の地下電氣鐵道左の如し

オウエックロウ、ニュークワロス、ニューストン及ヘムステッド電氣鐵道、延長五哩
ヘイカー街及びクオートルロー電氣鐵道、延長三哩(認可済)
大北及市街電氣鐵道、延長三哩半(工事中)
グロントン及びヒカガリー、サーカス電氣鐵道、延長二哩(認可済)
グロントン、サーアレン電氣鐵道、延長四哩四分三(認可済)
サウエストナメル及びオウエックロウ電氣鐵道、延長二哩(工事中)
オウエックロウ、サーアレン電氣鐵道、延長三哩半(工事中)

若しそれ等諸鐵道落成の際には倫敦の地下ま
た一つの大都市を開くこと、なるべく現に舊市の
銀行樹形近傍は既に二重の市街となり居りて既設

地下鐵道の集合點もこの邊にあり、是等の鐵道中
最も大仕掛なるは「倫敦中央電氣」にしてその装置
實に目を驚かすものなれどこれにも超えて一層の
大工事を見るならんと夢想する、はデブレル
電氣なり、こはメトロポリタンの市一周鐵道の
最も繁華なる部分に並行線を敷かからんする計畫に
て而かもその併行は平面の並行にあらずして立方
の平行なり、即ち今日營業せる鐵道線の下に今一
つの線路を敷かんとするものなりといふ、而して
何故に斯くの如く鐵道が漸次深く地下に潜り込む
かといふに今の市一周の地下鐵道を建設したる
頃は建築物も唯だ一通り地上に建てたるものなり
しかば左程に深く隧道を穿つ必要もなく處により

倫敦市「銀行樹形」の地下縦斷



ては切取りの工事に十分なりしも爾來地上の建
築さへ漸次地下に入りその間には上下水道を初め
電信電話線まで電燈瓦斯などの地下管すら布設
するに至りしかば是等の装置を遷くるためその後
に建築する、鐵道は愈深き地底に入り今の倫敦
中央鐵道はメトロポリタンより一層深く又た今後
の鐵道はこの市街より更に深き地底に布設するべ
く實に倫敦の地下は紐育の空中と等しく近年非常
の進歩をなしつゝ、あるなり、歐米を漫遊したる旅
客中には紐育の日々に變化するを見てその進歩を
嘆々するに反し倫敦の不変を見て發達の行止りと
なすものあれば是等の人々は今日倫敦が地下に於
て日々變化しつゝ、あるを忘れたるならん

大阪農
七十九
分は省九ヶ
保にて一萬
十圓、信用
帯六口六千
貸附金現在
第一瀬川
還に大阪
定定期償還
り尚昨年
期低利の
なりしが
●京都市
三十三
十九件金
五萬四千
工業は二
も満たさ
賦償還五
六十八圓
にして未
十九萬〇
期償還三
りし
●昨年中
日報より
輸出高は
譯左の如
長
江
航
北
南
其
小
計
●棉花同
戶銀行俱
來同業會
たりし
會は右

日本郵船株式會社出帆廣告
●高砂丸 廿四日午前六時出帆
●博愛丸 廿四日午後四時出帆
●春日丸 廿六日午前四時出帆
●三河丸 廿八日午後四時出帆

大阪商船株式會社出帆廣告
●臺中丸 廿四日午前六時出帆
●福岡丸 廿六日午前六時出帆
●釜山丸 廿八日午前六時出帆

●武庫丸 廿三日
●加茂丸 廿四日
●大井丸 廿五日
●淡川丸 廿六日

●名華丸 廿三日
●櫻井丸 廿四日
●加古丸 廿五日
●勝宮丸 廿六日

●生田丸 廿三日
●瑞川丸 廿四日
●名取丸 廿五日
●勝宮丸 廿六日

●淡口丸 廿三日
●淡口丸 廿四日
●淡口丸 廿五日
●淡口丸 廿六日

●安南丸 廿三日
●安南丸 廿四日
●安南丸 廿五日
●安南丸 廿六日

●原田丸 廿三日
●原田丸 廿四日
●原田丸 廿五日
●原田丸 廿六日

●尼崎丸 廿三日
●尼崎丸 廿四日
●尼崎丸 廿五日
●尼崎丸 廿六日

食料着色紅
食料着色青
食料着色黃
食料着色赤
○奧山榮助

土砂賣却廣告
漆喰、壁、地上土、人造石土

大阪電燈株式會社 第廿四回營業報告

Table with financial data including '貸方' (Assets) and '負債方' (Liabilities) sections. Includes items like '株金', '借入金', '預金' and numerical values.

大阪電燈株式會社
右公告候也
明治卅四年
監査役 大井甚與 寺田甚與